INAX CORPORATE REPORT 2009

DATA

C O N T E N T S

03 事業活動の報告
07 コーポレート・ガバナンス
09 お客さまのために
12 取引先とともに
14 地域社会とともに
16 文化活動の報告
19 社員とともに
24 環境活動の報告
32 『INAX Corporate Report 2008』へのご意見と対応
35 2008年度のおもな活動記録
36 会社概要

詳細情報や関連情報は INAX ホームページに掲載しています
『INAX Corporate Report 2009』INDEXページ（http://www.inax.co.jp/company/report/2009）をご参照ください

DATA（活動結果報告）ページはこちらから、特集ページは反対側からご覧ください

INAXの強みをいかし、住生活グループの力を結集し、より良い企業としての存続を目指す

株式会社 INAX 代表取締役会長
（株式会社住生活グループ 代表取締役社長）
杉野 公博

世界中で吹き荒れている不況のなかで、日本の住宅市場も新築着工 90 万戸割れを覚悟しなければならない厳しい時代となっています。トータルハウジングを志向する住生活グループは、この経済環境に耐えて、持続的に成長できる強固な利益体質づくりへの改革が急務です。グループ全体として、従来の経済成長を前提とした政策を見直し、各事業会社のコア事業を再構築するとともに、各社の枠組みを超えてグループの強みを最大化する事業再編を実行します。INAX は水まわりを中心とした住宅設備機器事業を担う事業会社として、住生活グループのなかで重要な位置を占めており、革新の要といえます。

具体的にはまず、INAX とトステムの住器事業…浴室、洗面、キッチン空間事業の競争力強化のため、重複している生産部門を一本化します。システムバス、洗面化粧台の生産は INAX の工場が、キッチンの生産はトステムが担います。これまでもシステムバスの設計部門を統合し、共同開発を行ってきましたが、さらに一歩進め、生産部門を統合します。そしてもうひとつ、2009 年 10 月に INAX とトステムの購買部門、物流部門を統合した新会社を設立します。資材調達や物流という事業を支える機能部分を住生活グループのもとで最適化します。

この生産部門統合と物流・購買の新会社設立は、生産効率の向上とコスト構造の大幅改善を狙うものですが、同時にそれは、商品モジュールの統合、部材の標準化・共通化を徹底することであり、商品の品質向上を促進するものにほかなりません。すなわち、各社のブランド力と流通の力を維持しながら、確かな品質の商品を競争力のあるコストで、安定供給する仕組みづくりといえます。いずれも、双方のノウハウやスキルを最大限にいかした最適のシステム構築を目指します。

一方、この統合・再編を通して合わせて推進したいことは、グループ間の人材交流です。自分たちとの違いを知り、お互いの知恵を共有し吸収しあうこと、あらゆる面で学びあうことができれば、組織も人もいっそう強く進化します。生まれや育ちの違う企業間で人材が行き来することにより、それぞれの風土や思考・価値観が混ざりあい、刺激を受け、グループの企業力は上がるでしょう。真のシナジー効果が発揮されると考えます。海外市場の開拓も重要テーマとして取り組んでいきますが、国内同様、グループとしての資源の共有や人材の交流、協力体制が、その大きな戦力となります。

そして、INAX の最大の強みは、社員の心と行動に根づいた企業理念「INAX 5」を持っていることです。この理念は、1985 年の新生 INAX 誕生以来、社員に受け継がれ、ブランド力向上の原動力となってきました。今この厳しい時代だからこそ、企業は生活者の期待にしっかりこたえ、地域社会に貢献し、健全に成長し続けることが求められています。企業体質を強化し、ブランド価値を高め、常に変化し挑戦し続ける INAX を、今後とも応援してくださいますようお願い申し上げます。

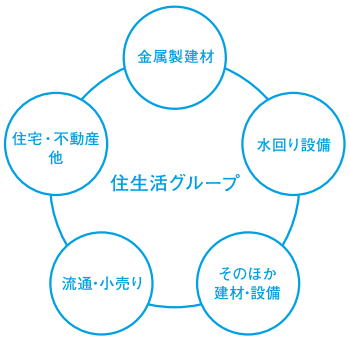
住生活グループ

株式会社住生活グループは、2001 年 10 月に株式会社 INAX とトステム株式会社が経営統合して誕生した純粋持株会社です。グループ全体では子会社 165 社および関連会社 83 社があり（連結対象子会社 45 社、2009 年 3 月期）、金属製建材や水回り設備などを主要な事業内容とし、21 世紀の快適な住生活・都市環境を総合的に提供しています。

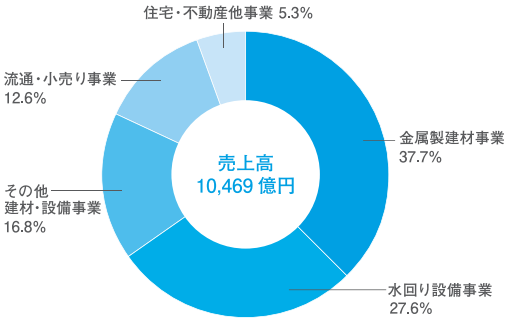
http://www.jsgc.co.jp/

住生活グループ

住生活グループ事業分野



セグメント別連結売上高



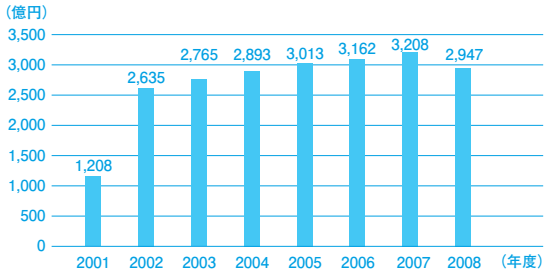
事業活動の報告

2008 年度の業績／事業分野・領域／第 10 次中期経営計画 初年度報告

2008年度の業績 2008年4月1日～2009年3月31日

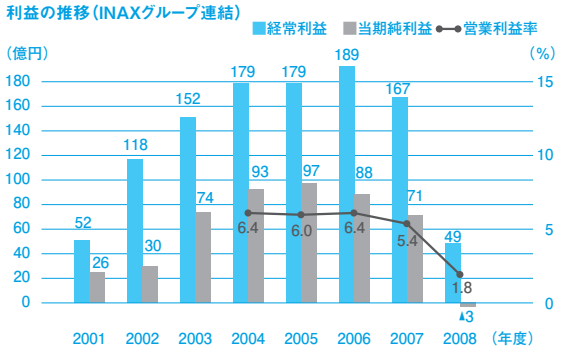
当期は、経済環境激変のあおりで、期中盤からの売上げが急激に低下しました。緊急施策として、全社を挙げてコストダウンに取り組み、経費の大幅抑制に努めましたが、結果として当期のINAXグループ連結売上高は2,946億65百万円となり、前年比261億20百万円（8.1%）の減少。経常利益は48億91百万円と前年比118億42百万円（70.8%）の減少。当期純利益は、特定製品点検損失の計上やショールームの積極展開に伴う固定資産の廃売却損の増加などにより、2億58百万円のマイナスで、前年比73億71百万円（−103.6%）の減少と大幅な計画未達となりました。

売上高の推移（INAXグループ連結）



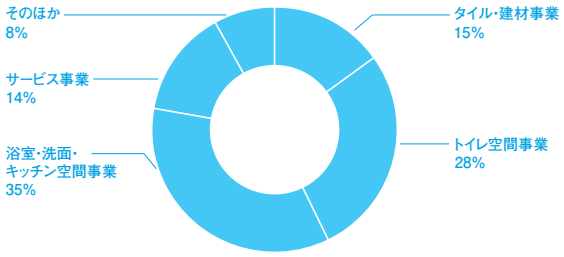
※1億円未満は四捨五入で表示
※2001年度数値は、2001年10月21日から2002年3月31日までの5.33カ月間
※2002年度以降は、当年4月1日から翌年3月31日までの1年間

利益の推移（INAXグループ連結）



※1億円未満は四捨五入で表示
※年度の期間は、グラフ「売上高の推移」の注釈参照

主要事業別売上構成割合（INAXグループ連結）



事業分野・領域

バス・洗面・トイレをひとつながりに「スイートルーム」（タイル・建材事業）

内装タイル「エコカラット プレシャスモザイク ペトラスクエア」（タイル・建材事業）

内装タイル デザインクラフト「アレーナリーフ」（タイル・建材事業）

外装タイル テラコッタルーバーシステム「オデッサ」（タイル・建材事業）

シャワートイレ一体型 きれいトイレ「サティス カラーズ」（トイレ空間事業）

洗面化粧台「エモア」（浴室・洗面・キッチン空間事業）

セレクトキッチン「イスト」（浴室・洗面・キッチン空間事業）

システムバスルーム「ラ・バス テイスト」（浴室・洗面・キッチン空間事業）

施工管理とリフォーム事業「INAX エンジニアリング」（サービス事業）

水まわりのプロフェッショナル集団「INAX メンテナンス」（サービス事業）

「INAX：GINZA」5階 タイル展示フロア（ショールーム）

5館からなる「INAX ライブミュージアム」（文化活動）

第10次中期経営計画 初年度報告

概況把握と第10次中期経営計画骨子

わが国の経済は、世界的な金融危機に伴う100年に一度ともいわれる世界不況の波にさらされ、極めて厳しい局面を迎えました。建築業界においては、2007年6月の建築基準法改正以降、新設着工の低迷が続いていましたが、世界不況のあおりで、回復の兆しは見えなくなりました。一方、世界的な経済成長下で高騰が続いてきた資材価格は、大きな需給変化により価格交渉力の転換期を迎え、デフレ基調に転じつつあります。

こうした激変する環境のなかで、当社は、第10次中期経営計画の初年度をスタートしました。その基本戦略は、経営コンセプト「質の追究」をすべての活動の根本理念としつつ、すでに始まりつつある新設着工激減時代に勝ち残るために、事業基盤・事業体質の再構築を図るもので、以下の5つを柱とし、事業活動を推進しています。

◆第10次中期経営計画5つの柱と報告

①「第10次中期経営計画 環境宣言」の達成

2050年にCO_2総排出量を1990年度比80%削減するというゴールを目指し、環境先進企業へのイノベーション課題の取り組みを開始。2008年度のCO_2総排出量は大幅な生産量減の影響もあり1990年度比27.9%減となりました（詳細DATA27ページ参照）。

Column

デザイナーズブランドとして定評のある「ジャクソン」を2008年12月、子会社化

高級浴槽および浴槽まわりを製造・販売・輸出入する「株式会社ジャクソン エス.ピー.アイ」は、欧米での評価が高く、デザイナーズバスタブブランドとして著名です。1982年創立で、千葉県匝瑳（そうさ）市に生産工場と56タイプのバスタブを展示する国内最大級のSTUDIO（総合ショールーム）があります。創業当初から、風呂はただ体の汚れを落とすものではなく、1日の疲れを癒すくつろぎの場であり、家族のコミュニケーションの場であることを根底に商品デザインを行ってきました。さらに、浴槽を単なる住宅設備機器ではなく、インテリアに昇華させ「バスタブは家具である」との考えを発信し、世界の富裕層の評価を獲得してきた企業です。これからはINAXグループの一員として、日本の豊かな風呂文化を世界に発信していきます。

②モノづくり基盤の強化と収益性向上

既存事業の収益体質を強化するとともに、INAXオリジナルな付加価値商品を拡販し、2010年度売上高営業利益率5%を達成します。

商品展開としては、日本の住宅への新しい提案として「INAXデザインコレクション CL」を2009年4月発売。また、競争力強化を狙い、2008年12月、高級浴槽および浴槽周りを製造・販売・輸出入する株式会社ジャクソン エス.ピー.アイの発行済全株式を取得し、100%子会社としました（コラム参照）。

③新築市場にとどまらずストック市場へ

ストック市場でのビジネス基盤をいっそう強化し、リフォームに関する売上げ1,000億円を目指します（後述）。

④モノづくりを基点としたコトづくりへ

商品の最終使用者である生活者（エンドユーザー）や、ビジネスユーザーへのソリューション提供などの事業を強化し、バリューチェーンの拡大を進め、サービス事業の売上げの100億円増加を目指します（後述）。

⑤国内にとどまらず海外市場へ

アジア・欧米を中心に海外での販売力を強化し、海外売上げを2007年度比3倍に拡大します（後述）。

営業政策報告

◆ストック市場重点方針

ストック市場（リフォーム市場）での需要創造や高付加価値商品の拡販に向けて営業組織を再編し、ショールームを基軸とした生活者（エンドユーザー）接近型の営業体制および、有力リフォーム顧客への営業体制を整備・強化しました（関連報告DATA32ページ参照）。

エリア戦略と連動した営業拠点展開については、久留米営業所を新設、また、松江営業所を移転・廃止し、米子営業所として新たに開設しました。ショールーム展開では、上質な空間をより多く、深く体感できるショールームを目指し、長野・熊本および中部地区の旗艦ショールームである名古屋ショールームをリニューアルオープンするとともに、沼津・和歌山・米子・久留米ショールームを新設し、ショールーム拠点数も全国64拠点に整備・拡大しました。2009年3月には、新宿ショールームの4階を増床し、「INAXデザインコレクション CL」の描く空間を提案する「CL stage」もオープンしました。

販売促進活動として、ショールームを中心に新商品&リフォームフェアを全国56カ所で開催し、新商品の早期市場浸透を図りました。また、ストック市場への取り組み強化として、約3,700店となる「INAXリフォームネットワーク」登録店との共同取り組みによる「INAXリフォームキャンペーン〜いい住まい いい暮らし応援2008」や全国ショールームでの「ショールームキャンペーン」を開催し、リフォーム需要の掘り起こしを図りました。

ショールーム拠点数の推移

2003	2004	2005	2006	2007	2008	（年度）
40	47	50	56	60	64	（店）

◆サービス事業重点方針

子会社である「INAXメンテナンス」、「INAXエンジニアリング」などの既存サービスの品質向上を目指し、工事・メンテナンス体制を再構築しています。ビジネスユーザー向けのサポート体制強化では、「元請業者

による住宅履歴情報の蓄積・活用を支援するサービス」が、2008年度第2回「超長期住宅先導的モデル事業」の「維持管理・流通等のシステムの整備」部門に、国土交通省によって採択されました。この統合カスタマーサポートは、工務店・ホームビルダーのアフターメンテナンス窓口（コールセンター）を運営しながら、住宅履歴書を作成し、お客さまのデータベースの作成・管理、分析、メンテナンスの受付から手配まで、アフターサービスにかかわる業務を専門チームが一括代行するものです。

主力商品

◆タイル・建材

室内の空気環境を健康的で快適にする健康建材「エコカラット」、新しいやきものの外壁の需要を創造する「テラコッタルーバー」やビル外壁などで使われる「テラコッタ陶板」が好調で売上げを伸ばしました。特に「エコカラット」は、新シリーズ「プレシャスモザイク ヴィーレ」などの人気が高く、また、発売10周年を記念したキャンペーンを実施し、お得なバリューパックなども販売しました。しかしながら、タイル・建材全体での売上げは、市場環境の厳しいなか昨年に届きませんでした。

◆トイレ空間

2001年発売以来、市場から高い評価をいただいているタンクレストイレ「サティス」は毎年進化を続け、2008年モデルも、市場が厳しく落ち込むなか、堅調に推移しました。また2008年6月には、INAXの最高機種としてゆとりのトイレ「レジオ」を発売しました。高い静粛性やスツールのようなフォルムと座り心地、陶器の優美な質感で、ドレッシングルームという新しい空間を提案しました。

衛生陶器、シャワートイレ全体の売上げは前年を下まわりましたが、水栓金具については、セット採用拡大により前年を上まわることができました。

「レジオ」

空気と水をコントロールする「サイレントストリーム洗浄」で洗浄音を低減し静粛性を実現。フタが開くと流れる音楽は、ジャズピアニスト木住野佳子さんとコラボレートしたオリジナルレコーディング曲を搭載。

◆浴室・洗面・キッチン空間

システムバスルームは、4月発売の戸建住宅向け「ラ・バス」が順調に売上げを伸ばしましたが、全体では後半の落ち込みが大きく、システムバス全体で前年の売上げを下まわりました。また、洗面化粧台は、戸建住宅向け「エルシィ」、「ピアラ-DS」、集合住宅向け「オフト」が、システムキッチンは、使いやすさを追究したセレクトキッチン「イスト」と、集う暮らしをデザインするライフスタイルキッチン「グランピアッセ リュクス」などが好調でした。

しかし、住器事業部全体での売上げは昨年に届きませんでした。

Column

「エコカラット」10周年記念キャンペーン

1998年10月発売の「エコカラット」は、それまで水まわりが中心だったタイルを、リビングや寝室などの居室空間を演出する新しいインテリア材として展開し、昨年10周年を迎えました。

「エコカラット」は、エネルギーを使わずに室内の湿度を一定に保つ優れた調湿効果を持ち、有害物質やニオイを軽減するという画期的な機能を持った内装タイルです。

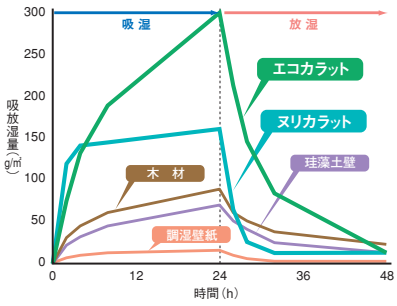
発売当初は、2シリーズ16色の品揃えでしたが、インテリア建材としてデザインの追究を続け、2009年4月には、22シリーズ全80色とバリエーションも豊富です。表情をいかした陰影のあるデザインを多彩に揃え、大画面テレビなどの背景にも似あう上質な高級感が、リビング空間などを美しく演出します。

「エコカラット」の高いデザイン性は、ヨーロッパの展示会でも注目を集め、その性能とともに支持を広げており、韓国の建築業界でも市場浸透が進んでいます。

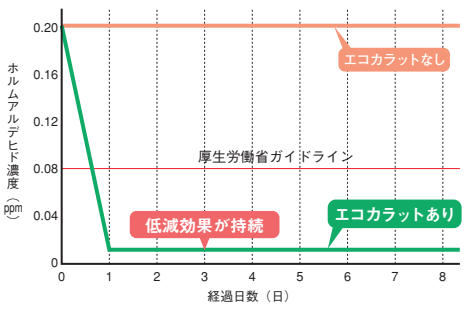
国内でも建築家をはじめビジネスユーザーを中心に高く評価され、売上げも順調に推移していますが、生活者への周知拡大を狙い、2008年10月～2009年3月、佐々ゆうこさんによるインテリアコーディネートと「エコカラット」10万円分が当たる「住まい一新！カラッとキャンペーン」を実施しました。

2002年には（財）日本建築センターから日本初の「ホルムアルデヒド低減建材」として認定、2008年には、（社）日本建材・住宅設備産業協会の「調湿建材登録・表示制度」の審査・登録を取得しており、「エコカラット」の機能は、第三者機関によって厳正に審査、評価されています。

各壁材の吸放湿量



ホルムアルデヒド低減能力



※データは当社試験による結果です。他建材、家具の設置、気象、換気などの条件によって異なります

「グランピアッセ リュクス」C型ゲート対面プラン

シンク、コンロ、調理スペースへ全方向ワンステップでアクセスでき、キッチン内の作業負担を通常のI型キッチンに比べて30%カット。2人でも使いやすい作業空間を確保し、調理を手伝う家族からもアプローチしやすい形状で、適度な距離感も演出。

洗面化粧台「ピアラ」

「ファミリーサポート」、「インテリアコーディネート」、「使う収納」の3つのコンセプトを進化させたインテリア感覚溢れる家具調デザインの洗面化粧台で、家族で使える2ボウルタイプや踏み台にもなるスライド収納など機能も充実。仕様を限定した姉妹品「ピアラ-DS」もラインナップ。

海外事業

2008年度の海外売上げは、約80億円で、組織強化を行い、大きな目標に向けて前進を開始しました。

中国の販売面では、「伊奈(中国)投資有限公司」が、営業エリアの拡大を図るとともに、内装つき住宅への営業、物件営業体制を強化し、売上げ拡大に向けて取り組みました。

ベトナムでは、衛生陶器の子会社「INAX VIETNAM SANITARY WARE CO., LTD.(VINAX)」が大幅に業績を伸ばし、新たに第4工場を立上げました。また、市場の成長に先がけ、ベトナムでの外装タイルの製造販売会社「INAX VIETNAM CO.,LTD.」を設立し、工場の操業を開始しました。

輸出については、世界最大のインテリア建材・住宅設備機器の展示会「CERSAIE(チェルサイエ)」に出展を続け、また、ロシアの「モスビルド展示会」、上海の展示会などにも出展し、世界各国に販売代理店を設置しました。2008年9月以降の世界不況のなかでも、売上げ減少を食い止める努力の一方、先を見て販売の再構築を進め、景気の回復とともに大きく成長する体制をつくりつつあります。

海外拠点の拡充

2008年7月	INAX VIETNAM CO.,LTD.開業 外装タイル工場稼動(ベトナム)
2008年9月	VINAX 衛生陶器第4工場稼動(ベトナム) 蘇州伊奈陶瓷 衛生陶器第2工場稼動(中国)
2008年11月	INAX VIETNAM PLUMBING FIXTURES CO.,LTD.設立(ベトナム) INAX KOREA Corporation開設(韓国) 「ハノイショールーム」リニューアル(ベトナム)
2008年12月	モスクワに「RUNAXショールーム」オープン(ロシア)
2009年1月	「ダナンショールーム」新設(ベトナム)

Column

浴室の基本機能をさらに進化、充実させた「ラ・バス」

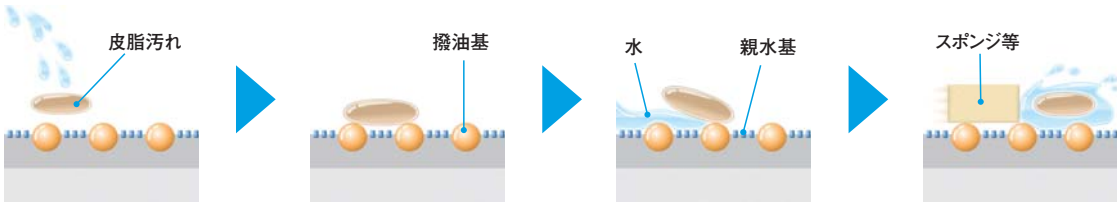
INAXとトステムは、床の冷たさを軽減する「サーモフロア」(2004年)、湯を冷めにくくする「サーモバス」(2005年)、指一本で吐水・止水できる「プッシュ水栓」(2006年)、残り湯を利用して排水口のお手入れを簡単にする「くるりんポイ排水口」(2007年)など、浴室でのお客さまの困りごとを、エネルギーを使わずに解決する機能を開発・提供してきました。

2008年4月発売の「ラ・バス」は、これらの機能の蓄積に加え、表面処理と新面状で汚れにくく掃除のしやすい「キレイ床」と、換気用のガラリの位置を変え、カビが生えやすいパッキンを無くした「キレイドア」を搭載した新シリーズです。

「キレイ床」は、スポンジで汚れをふき取りやすい新面状のお風呂の床に、特殊な表面処理加工を施し、身体から出る皮脂汚れをはじく撥油性能と、汚れを浮かせて流しやすくする親水性能を持っています。「キレイドア」は、従来ドアの下部にあり、ホコリがたまりやすかった換気開口(ガラリ)をなくし、タテ型にすることで、すっきりした外観を実現すると同時に、浴室側パッキンもなくし、カビが生えにくく掃除しやすいドアです。

基本機能を進化させた「ラ・バス」は、リフォームにも最適で、このほか、浴室の表情をつくる鏡や、贅沢な入浴感が味わえる浴槽のデザインも刷新。地上デジタル放送対応の12型ワイド浴室TVや気泡浴槽、水中照明など豊富なオプションも準備しています。

手間なし カンタン! おフロ掃除
キレイ床



入浴中、洗髪やシャワーで皮脂汚れが発生

使用後乾いた状態。撥油基(油をはじく成分)があるため、床表面と皮脂汚れが強く固着しにくい

お掃除の際に水を流した状態。親水基(水となじむ成分)があるため、水が皮脂汚れの間に入り皮脂汚れが取れやすくなる

コーポレート・ガバナンス

経営管理体制／リスクマネジメント／コンプライアンス／情報セキュリティ

経営管理体制

住生活グループの経営管理体制

住生活グループは、持株会社の株式会社住生活グループの傘下にある、各事業会社が連携しつつ、独自性を保ちながら業務を執行し、業績を向上させていくという経営を推進しています。また、コーポレート・ガバナンスの強化を経営上の最重要課題のひとつとして認識し、すべてのステークホルダーの信頼を高めるため積極的に取り組んでいます。

・住生活グループ「コーポレートガバナンス」ホームページ
http://www.jsgc.co.jp/about/governance/

INAX グループの経営管理体制

INAXグループでは、住生活グループのコーポレート・ガバナンス方針のもと、企業市民として責任のある企業運営が円滑に行われるよう体制を構築しています。企業理念「INAX5」や倫理観を重んじる社風とあわせ、部門ごとの自立的な自主監査を尊重しつつ、監査役、監査室、会計監査人が連携して、国外の子会社までを含めたグループ全体の監査を実施しています。なお、INAXでは、監査役制度を採用しており、社外監査役2名を含む4名からなる監査役が、取締役の職務執行について監査を実施しています。

事業の継続・安定的発展を確保し、企業の価値を維持・増大する観点からも、危機管理活動、内部統制システム、コンプライアンス活動を含めた、総合的なリスクマネジメント活動を推進しています。

内部統制

企業理念「INAX5」および住生活グループ行動指針をもとに内部統制を行っています。2009年3月期の決算から適用された金融商品取引法に基づく「内部統制報告書」の公表義務（いわゆるJ-SOX法）に対しては、2006年2月から「内部統制構築プロジェクト」を設置し、内部統制の仕組み構築に取り組んできました。2007年度は、「全社的統制」、「決算・財務処理統制」、「業務処理統制（販売・在庫・購買）」および「IT統制」における文書化の整備を行い、試験運用を実施しながら各統制の仕組みの改善・充実を図ってきました。2008年度は、J-SOX法適用の初年度として内部統制の仕組みを本格運用し、各部門による自己点検と内部監査での評価・改善を積み重ね、信頼される内部統制活動を実施しています。

各種監査の状況

◆内部監査

INAXの内部監査部門（監査室）は7名で構成されています。また、主要な子会社にも監査部門が設置されており、INAXグループ全体で社内監査を実施しています。そのほかの子会社においては、INAXの内部監査部門が定期的に監査を実施し、グループの統一的な監査方針の共有化を図っています。

◆業務監査

INAXの監査役は、取締役に対して職務執行状況について監査を行うほか、グループ全社に関して定期的に往査して事業の報告を求めるなど、必要な調査を実施しています。

◆会計監査

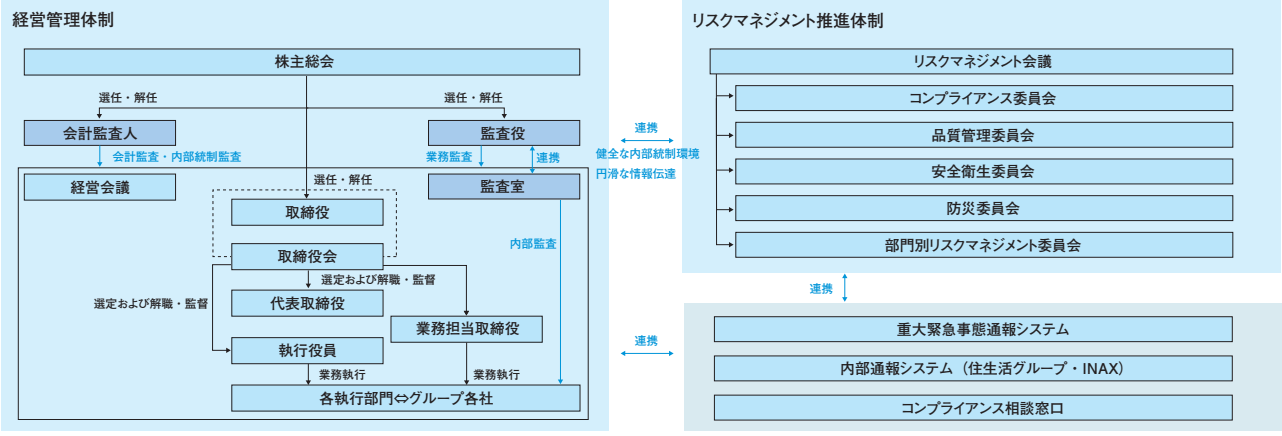
INAXは監査法人トーマツとの間で会計監査について監査契約を締結しています。INAXの内部監査部門、監査役、会計監査人は定期的に情報共有の場を持ち、各々の監査方針や期中に発生した問題について情報交換を実施しています。

リスクマネジメント

住生活グループ全体の発展に寄与しながら、INAXグループの企業価値を維持・増大していくため、2007年10月に「リスクマネジメント規程」を策定し、リスクマネジメント活動に取り組んでいます。

リスクマネジメント推進体制

社長を委員長とし、危機管理活動を組織横断的に推進する「リスクマネジメント会議」を最高意思決定機関として、法令違反や品質問題、事故・災害などの主要リスクごとにリスク管理活動を推進する「コンプライアンス委員会」、「品質管理委員会」、「安全衛生委員会」、「防災委員会」ならびに「部門別リスクマネジメント委員会」からなるリスクマネジメント推進体制を構築し、INAXグループ各社の末端までリスク管理活動を浸透させる体制を敷いています。「リスクマネジメント会議」は、原則隔月に定期開催（必要に応じて臨時開催）しています。



リスクマネジメントの取り組み

全社および各部門において原則年1回リスクの洗い出しを行い、リスクが実際に発生した際の影響度と発生可能性（発生頻度）を評価し対応策を作成、定期的な対応訓練を行って有効性を確認しています。地震などの自然災害のリスクに対しては、BCP（事業継続計画）を社外の調達・仕入先にまで範囲を拡大して施策を進めるとともに、全社で毎月初めに、役員社員およびその家族の安否確認の訓練を実施し非常時に備えています。

重大な緊急事態が発生した場合は「重大緊急事態通報制度」により速やかに経営トップに通報し、必要に応じて危機対策本部を設置して対応にあたる体制を敷いています。また、対応過程で発生した問題点や改善点はリスクマネジメント活動にフィードバックし、常に改善・充実を図っています。

2008年度は、全社版危機管理マニュアルをほぼ全面的にリニューアルし、切り替えを行いました。また、全社および各部門で重要リスクを管理し、四半期ごとに取り組み状況の確認と振り返りを行う仕組みを稼動させています。

コンプライアンス

コンプライアンスを「リスクの顕在化を未然に防止する」という観点から、リスクマネジメント活動の一環として取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制

コンプライアンス委員会を適宜開催し、グループ全体の企業倫理や行動規範・法令順守に関する諸施策の立案とコンプライアンス意識の醸成・深化に取り組んでいます。

内部通報制度と相談窓口

法令や社内規程、あるいは企業理念や「住生活グループ行動指針」に反する行為を知ったり、予兆に接したり、自ら犯してしまった場合に、職制で相談・報告することが難しいときに備え、相談・報告できるルートを住生活グループと連携して「内部通報制度」として制度化し、迅速で公平公正な問題解決に努めています。具体的な通報手段としては、手紙などの郵送や電話での通報のほか、INAXイントラネット「企業倫理ヘルプライン」の利用や、住生活グループのイントラネットでの通報も可能です。

コンプライアンスに関する取り組み

2005年から毎年10月を企業倫理月間と定め、INAXグループ全社員へのコンプライアンス意識の徹底を図っています。また、新入社員については入社時の集合研修の際に、中途採用者については入社時に随時コンプライアンス教育を実施しているほか、経営管理研修などの社内研修にてコンプライアンスをテーマとした教育を実施しています。さらに、各種ツールを作成し、社員の知識の向上および意識の啓発に努めています。

2008年度は、企業倫理月間に「住生活グループ行動指針」の読みあわせと誓約書の提出を実施したほか、イントラネット上で「行動指針に関するアンケート」を実施し、アンケート結果を社内報「あいえす」およびイントラネットに公開しました。また、各部門における契約の重要性に対する理解を深めるために、全社員に冊子を配付し、グループ討議を行いました。

情報セキュリティ

情報の活用により企業競争力の維持・向上を図る一方で、情報漏洩や不正アクセスなどの脅威から情報を適切に管理するために、「情報セキュリティ基本方針」および「情報セキュリティ規程」を定め、情報に関するリスクマネジメントを重要な情報戦略のひとつと位置づけて取り組んでいます。

情報セキュリティ体制

情報システム部にセキュリティに関する技術部署を設置し、情報資産に対するセキュリティ対策をとっています。また、2003年12月に設置した「顧客情報センター」では、個人情報保護方針の明示および開示請求への対応を行うとともに、社内に対する個人情報保護規程などの規程類の整備、個人情報の管理や活用に関する指導・監督を行っています。万が一、データ漏洩や個人情報などの問題が発生した場合にも、被害を最小限にとどめることを目的に、情報システム部、法務部、監査室、人事・総務部、顧客情報センターが連携を図る体制としています。

情報セキュリティの取り組み

情報資産をさまざまな脅威から保護するために、ネットワークへのセキュリティ対策、データへのアクセス制御や暗号化による秘匿化、生体認証などを取り入れ、技術的安全管理措置を講じています。また、データを保有する建物への入室チェックなど物理的安全管理面での対策や、情報システムにアクセスする可能性があるすべての社員に対し、情報セキュリティ誓約を毎年課すなどの人的安全管理の面での対策も実施し、情報保護に万全を期しています。

2008年度は、携帯電話の高機能化に伴い、電話機本体にさまざまな情報を記録することが日常的に行われていることから、遠隔操作によるロック機能やデータ消去機能を持った携帯電話への切り替えを実施しました。

個人情報（顧客情報）の保護

お客さまに安心して個人情報を提供していただけるよう、個人情報の取り扱いに関する考え方や方針をホームページなどに「個人情報の保護に関する基本方針」として公表しています。この基本方針に沿って、個人情報の開示請求や問いあわせの窓口として「顧客情報センター」を設置しています。個人情報を保有・活用する部門は、顧客情報センターの指導・助言に沿って個人情報を管理・使用するとともに、重点部門では定期的会議による安全管理措置の評価・見直しなどの改善を行っています。また、すべての社員に対し個人情報保護法に関する教育研修を行い、個人情報保護に万全を期しています。

お客さまのために

製品の安全性に関する取り組み／お客さま接点での取り組み

製品の安全性に関する取り組み

製品安全自主行動方針

「製品安全自主行動方針」を策定し、INAXの製品がお客さまに安全に、かつ安心してお使いいただけるよう、製品の安全性向上に積極的に取り組んでいます。

製品安全自主行動方針

株式会社 INAX は、当社の製品が、お客さまに安全に、かつ安心してお使いいただけるよう、以下のとおり製品の安全に関する基本方針を定め、積極的に取り組んでまいります。

1. 法令の遵守
当社は、消費生活用製品安全法その他製品の安全に関する国内外の諸法令を遵守します。

2. 自主行動計画の策定
当社は、製品の安全に関する自主行動計画を策定し、その実行を通じて、お客さまの安全、安心を第一に考える企業文化の育成と維持に努めます。

3. 安心してお使いいただける製品づくり
当社は、お客さまのさまざまなご使用場面を想定した製品安全社内基準を定め、製品の安全性向上に努めます。また、誤使用や不注意による危険をできる限り排除できるよう、製品の正しいご使用方法やお手入れの方法を取扱説明書他に分かりやすく明記します。

4. 製品事故への対応
当社は、お客さまからの事故情報を積極的に収集するとともに、お客さまや社外の関係者に対して、適切な情報開示に努めます。また、普段から事故に迅速に対応できるよう体制を整備し、重大製品事故が発生した場合は、直ちに事実確認と原因究明を進め、お客さまの立場に立って判断の上、関係官庁への報告、製品の修理や回収等の対策を講じます。

5. 推進体制の構築
当社は、お客さまに安心して製品をお使いいただけるよう、製品安全のための取り組み体制を整備するとともに、継続的にその改善をしてまいります。

◆温水洗浄便座の注意喚起活動について

住宅設備機器のなかでも温水洗浄便座はもはや生活必需品となっていますが、陶器製便器と違い温水洗浄便座は電気製品で寿命があります。そのため、長期間使用した温水洗浄便座において、故障したまま使い続けた結果、製品焼損につながったという事故が発生しています。これを受けて、INAXは業界団体である温水洗浄便座協議会とともに消費者への積極的な注意喚起活動を行っています。またINAXでは独自に、古い温水洗浄便座の7つの機種タイプについて専用のコールセンターを設置しました。ご要望をいただいたお客さまのお宅にカスタマーエンジニアが訪問し、不具合の無償確認を承るサービスを開始しています。不具合が確認された場合はお客さまへご使用を中止していただくようお願いするとともに、ご希望のお客さまには有償で製品交換を行っています。

具体的な活動内容

ホームページへの情報掲載（2008年11月26日）
全国新聞への広告掲載（2008年11月27日）
地方新聞への折込チラシ（2009年3月から全国で展開）
ユーザー登録のお客さまへのダイレクトメール（2009年3月から開始）
ショールーム店頭での注意喚起チラシ配布
カタログへの注意喚起チラシの記載

・「大切なお知らせ」ホームページ
http://www.inax.co.jp/warnings/

◆消費者関連団体への積極的な情報提供

INAXでは消費者関連専門家会議などの団体に積極的に参加し、水まわりのお手入れや長期使用時の注意喚起など、商品を長く、快適に安心して使っていただくための情報提供を行っています。最近では業界団体である温水洗浄便座協議会とともに、新聞チラシや広告などで「温水洗浄便座の安全な使い方」に関してお伝えしたり、「主婦連合会」との意見交換会や生活相談センターなどでの講演 a で直接のコミュニケーションの場を持って消費者の安全のために積極的な告知活動を行っています。また「水まわりピカピカ・ブック」 b はわかりやすく有益に使えると好評をいただいており、全国の消費者団体の展示コーナーでも置いていただいています。

CS 推進室のおもなコミュニケーション活動

ACAP※1 九州地区部会（2008年9月5日）INAX お客さま相談センター活動発表
名古屋市消費生活フェア消費者クイズ大会参加。来場者数約 45,000 人（2008年9月20日）
消費者対応・知識共有ミニ講演会（2009年2月18日）
奈良県食品・生活相談センター「やって身につく 身にみに講座」（2009年3月4日）、水まわりの安全・チェック「水まわりのマメ知識」（2009年3月4日）、NACS※2 中部支部総会 講演会（2008年6月7日、10月4日、11月1日）
企業と生活者情報交換会 in 名古屋（2008年11月14日）
全国消費生活相談員協会中部支部交流会（2009年1月30日）
「水まわりピカピカ・ブック」提供・・・消費生活センター（全国の 16 カ所）の「ACAP※1 消費者啓発資料常設展示コーナー」および「消費者問題国民会議」、「行政の消費者フェア」などへの継続提供展示。合計 1,132 部

※1 ACAP:(社)消費者関連専門家会議
※2 NACS:(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会

a

b

◆電気安全ワーキンググループによる未然防止活動

INAXの提供する水まわり設備機器は、快適な機能をお客さまに提供するために電気を使用するものが数多くあります。一方、長期間の使用による製品の経年劣化など電気製品特有の製品事故・不具合が発生しています。INAXでは電気関連製品の安全確保のため、「電気安全ワーキンググループ」を発足しています。第三者による電気安全有識者委員会を招聘し、事業部を横断して製品の企画設計段階から「電気安全レビュー」を行うなどさまざまな工夫を行いながら、業界水準以上の電気安全の確保を目指しています。

◆製品安全会議による未然防止活動

市場で製品事故が起きた場合、「製品事故情報管理システム」にすべての案件を登録します。蓄積された情報をもとに、今後の事故を未然に防ぐため製品安全会議を月に1回開催し、全社で事故情報の原因、対策の共有化を行っています。特に品質保証統括部が毎月の製品事故情報を確認・チェックして取り組み課題を抽出し、各事業部が実施する製品改善、対策効果までの進捗確認やリスク管理を実施しています。また、この会議で決定した事項は「製品安全設計標準」に反映させています。

お客さま接点での取り組み

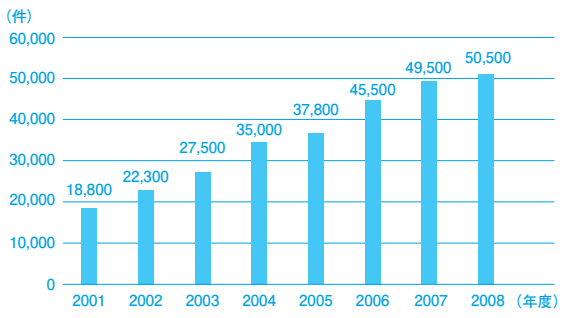
INAXの提供する商品やサービスは、設計・施工されて初めてお客さまにご使用いただけ、価値を理解いただける商品です。商品を使用されるお客さまとINAXとの間には、多くのビジネスパートナーが介在するため、INAXがお客さまの声を直接伺うことができるのは、ショールームやお客さま相談センターなどに限られます。これらの限られた接点から得られる情報を大切にするとともに、カタログやホームページなどのツールを通して、INAXの商品や企業活動をお客さまへ伝えています。

お客さま相談センターの取り組み

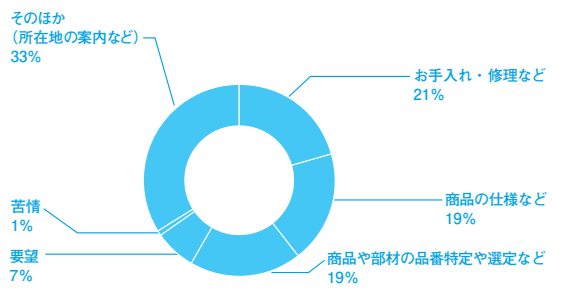
1999年6月、東京・大阪・名古屋に点在していたお客さま相談室を統合し、「お客さま相談センター」を設立しました。CS推進統括部に属するお客さま相談センターには、専門知識を持つベテラン相談員を中心に117名（2009年3月現在）の相談員を配し、幅広く一般の方から専門業者の方まで、お客さま別の担当制にて対応しています。

問いあわせ内容はすべてデータベース化し、商品の開発や改良、カタログの改善などに活用しています。また、相談員に対しては専門知識の強化、ケーススタディによる教育を継続的に実施しています。

お客さま相談センター　問いあわせ件数（月平均）の推移



お客さま相談センター 相談内容内訳（2008年度）



2009年6月には、設立10周年を迎えますが、商品の多様化などから、問いあわせ件数は増加傾向です。応対状況を監視しながら、お客さまの声が確実にINAXに届くよう努めています。

◆お客さま相談センターに届く「お客さまの声」の活用事例

データベース化された「お客さまの声」は、開発・生産系部門、営業部門などで活用しています。

社内の誰もが活用しやすいようイントラネット上に、問いあわせの回答を見つけるためのFAQシステムと、どんな問いあわせが多いのかを「お客さまの声」から検索できる分析システムの2本立てで掲載しています。FAQ（よくある質問）は、約100,000件／月、「お客さまの声」分析システムは約10,000件／月の利用があります。

- 問いあわせのあった商品や内容を社内公開し、検索、閲覧可能に。
- 問いあわせ内容を分析し、開発部門や品質保証統括部門など担当部署へ発信、改善や新商品に提案を実施。
- 「お客さまの声」から社内外に必要な情報を見つけ出し、資料作成やFAQ作成を行って、INAX全体でのお客さまへの応対の向上につなげる。

◆お客さま相談センターの評価

お客さま相談センターには、社内からの問いあわせも数多く寄せられます。社内からの問いあわせの先には、社外のお客さまがいます。そのため、2005年4月から半年に一度、社内の他部門によるお客さま相談センターへの評価をアンケート形式で実施しています。2008年度は、その結果をさらに改善につなげるよう、アンケート内容、分析方法を変更し、応対の質の向上にいかしています。また、客観的な評価による応対品質向上を目指し、第三者による応対品質の評価を年に1回実施しています。

アンケートを通して良い評価を得る機会も増え、相談員の働く意欲の向上にもつながっています。

◆お客さま相談センターでの社員教育

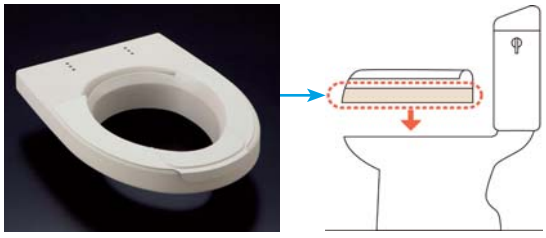
お客さまへの応対品質向上を目指し、商品知識や応対スキルの向上のための研修をお客さま相談センターで企画し、実施しています。相談員を対象とした商品知識研修は、2008年度は50回開催し、延べ1,300名が参加しました。社外講師による応対スキルアップ研修や社

Column

「お客さまの声」が反映された商品例

2009年4月発売 「シャワートイレ付・暖房便座付／補高便座」

補高便座は、「トイレの座面高さを高くする商品はありませんか？」というお客さまの声から生まれた商品で、座面の高さを3cmもしくは5cm高くできます。便座の高さを上げることで体への負担を軽減し、立ち座りが楽になります。今ある便座に簡単に取りつけることができ、「介護保険付対象商品」です。



外研修への参加も行っています。またお客さま相談センターのスタッフを対象に各々の職務や知識にあわせた各種の研修も行っています。

ショールームでの取り組み

「住まいをより快適なものにしたい」という生活者の思いを実現するためにも、生活空間で使用する商品を実際に見て、触れて、体感する機会が求められています。一方、商品の種類や機能は、多様化・複雑化しており、対面での丁寧なコンサルティングが、より大切になってきました。INAXのショールームでは、専任のアドバイザーが商品を紹介するとともに、お客さまそれぞれの要望に的確におこたえするためさまざまな活動をしています。

◆新設、移転、リニューアル

INAXは、暮らしに役立つパートナーとして、ショールームの新設、移転、リニューアルを積極的に行っています。長野、熊本、久留米などのショールームでは、地域の風景や特色を反映させた展示を行い、また、新宿や名古屋など旗艦ショールームでは、インテリアショップとコラボレーションし、家具やキッチン小物までコーディネートした展示を展開しています。2009年3月現在、全国64カ所でお客さまをお迎えしています。

2008 年度　新設・移転・大規模リニューアルしたショールーム

2008 年 4 月	長野（リニューアル）
2008 年 5 月	熊本（リニューアル）、米子（新設）a、久留米（新設）b
2008 年 6 月	名古屋（リニューアル）c
2008 年 9 月	沼津（新設）
2008 年 10 月	和歌山（新設）d
2009 年 3 月	新宿ショールーム（4 階「CL stage」増床）

a

b

c

d

◆ショールームイベントの実施

お客さまと直に接することのできる場を活用し、ショールームごとに工夫をこらし、料理教室やもちつき大会などのコミュニケーションイベントeを開催しています。また、販売促進キャンペーンのほかにも、2005年から継続して参加している「100万人のキャンドルナイト」では、「でんきを消して、スローな夜を。」をスローガンに全国のショールームで来場者にキャンドルをプレゼントして、「100万人のキャンドルナイト」への参加を呼びかけましたf。

e

f

◆ショールームアドバイザーの教育・研修

ショールームでお客さまに満足していただくためには、お客さまと接するアドバイザー個人のスキルアップが欠かせません。そのため、アドバイザーに対してさまざまな教育・研修の機会を用意しています。

新人研修では接客の基礎となる商品知識をはじめ、体験を踏まえたコンサルティング力を養うため、実際のキッチンを使用した研修も実施。商品の施工実習、基礎メンテナンス研修など、年間を通じて研修計画を立てて実施しています。さらに、ユニバーサルデザインの知識習得や、高齢者の視点から商品を検証するインスタントシニア研修、カラーコーディネート、パース図作成などの専門知識を養うコース、お客さまの声を積極的に引き出すアクティブリスニングといった応対スキル研修なども実施し、接客場面の専門家集団としてのスキルアップを図っています。また、ご案内の際にはアンケートをお願いし、その結果を真摯に受け止めながら、モチベーションを高める一助としています。

一方、アドバイザー個人が接客を通じて得た情報やノウハウは、イントラネットで社内に共有化し活用することで、品質改善や研究開発の検討材料としても役立てています。

各種ツールを活用した情報の受発信

INAXの商品やサービスを理解していただくために、カタログやホームページの充実に取り組んでいます。カタログは用途や対象に応じて作成し、ショールームやホームページから入手できるよう整備しています。特に近年お客さまからの要望がたいへん多かったオンラインカタログの掲載内容を拡充し、お客さまが自宅や職場のパソコンで、いつでも簡単にカタログを閲覧できるサービスを整えています。

また、すでにINAX製品を使用されているお客さまの役に立つよう、アフターサポート情報も提供しています。製品を安全に使用するための情報や、取扱説明書のダウンロード、お手入れ情報などを充実させています。

・「アフターサポート」ホームページ
　http://www.inax.co.jp/aftersupport/

◆お客さま満足度の把握と反映

お客さまの声に耳を傾け、改善につなげるため、さまざまな場面でお客さま満足度調査を実施しています。

インターネットを通した商品満足度調査による商品改善活動をはじめ、メンテナンス子会社である「INAXメンテナンス」では、修理に伺ったサービスマンのマナーや修理のできばえなどについて、はがきによるアンケートを行い、対応を含めた改善に役立てています。

また、2005年から導入している「WEBサイトCSアンケートシステム」では、ホームページ利用者から毎月100件を超えるご意見をいただいており、これらの意見や指摘に基づいて、前述のオンラインカタログの充実や不足情報の追加など、ホームページの制作にいかしています。

取引先とともに

資材調達場面での取り組み／販売場面での取り組み

資材調達場面での取り組み

「住生活グループ行動指針」に基づき、INAXグループ独自の調達方針などを公開し、公正で誠実な取引と購買活動に取り組んでいます。ホームページ「INAX購買ナレッジ・ネットワーク」サイトで、公正で誠実な取引を実現するために新規の取引先を幅広く募集し、また、取引先にのぞむコンプライアンスや企業姿勢、労働条件および安全衛生への配慮、環境への取り組みなども公開しています。

パートナーシップの構築（購買センター）

◆品質改善活動

購入品の品質向上改善活動のひとつとして、半年ごとに取引先の品質レベルを評価し、その結果を取引先と共有化し、品質改善の指標としています。必要な取引先に対しては、INAX全社をあげて品質体質の改善を支援し、その結果、取引先責任による品質不具合件数は、昨年1年間に26%減少しました。

◆取引先のBCP（事業継続計画）強化活動

お客さまへの供給責任および満足度向上を図るため、2008年から取引先にBCP強化の活動推進をお願いしています。

おもな活動は、①2回目の「BCP取り組みに関する自己診断調査」を実施しました。前回より取引先の取り組みレベルが改善されたことを確認できました。②昨年に続き、2008年新商品の新規部品の製造場所調査を実施しました。取引先と情報を共有し、リスク発生時の迅速な対応に活用しています。

◆環境取り組み改善活動（有害化学物質調査）

取引先とINAXでの有害化学物質の未使用確認、あるいは使用削減を目的に、INAX「有害化学物質使用規定」に基づき、納入品の「有害化学物質使用調査」に取り組んでいます。法改正により、法律で禁止される化学物質が増え、またINAXが独自に規制する物質リストも改訂したため、2008年8月22日と25日に、195社の主要取引先を招き、「有害化学物質使用調査説明会」を開催しました。2008年8月～2009年3月の調査から、インターネットによる集計方法を導入し、取引先はINAXホームページの「INAX購買ナレッジ・ネットワーク」の「有害化学物質調査システム」から回答登録を行いました。

このシステムにより調査作業は簡便になり、品番ごとの有害化学物質の含有有無など有害化学物質の使用状況がタイムリーに把握できるようになりました。また、取引先も登録内容をいつでも確認できます。

今後も「法規制の変化」、「新規納入品の発生」に対応した継続的な調査を実施していきます。

販売場面での取り組み

INAXの提供する商品やサービスは、設計・施工されて初めてお客さまにご使用いただけ、また、施工後のメンテナンスやリフォームまで、輸送場面も含め、数多くのビジネスパートナーに支えられています。公正で透明性のある取引を実施するとともに、実際に商品を施工する工務店などの施工業者に対しては、商品知識はもちろん施工実習など研修の場を設け技術支援も行っています。

商品を届ける場面では輸送面でのCO_2削減をはじめ「環境」、「品質」、「安全」をそれぞれ高いレベルで維持できるよう協力して取り組んでいます。

特約店（代理店）・販売店との取り組み

INAXの商材は、多くの場合、特約店と呼ばれる代理店を通して施工業者などに販売されます。国内の販売店とは日常的にコミュニケーションを図っており、不具合情報などをお客さまへ連絡する際には、販売店網を駆使し協力を得ています。また、INAXのモノづくりの歴史や品質追究の姿勢への理解を深め、より良いパートナーシップを築くために、工場や「INAXライブミュージアム」の見学会を適宜開催しています。

商品認知と理解促進のため、2008年3月～5月「新商品&リフォームフェア」をショールーム中心に全国56会場で開催。また、主要特約店会員組織nic会※1の総会を5月に開催、全国から165社の特約店幹部が参加し、INAXの経営方針・販売方針を共有化しました。nic会活動では、社内外の講師を派遣し、特約店経営や人材育成に関する教育・研修会やコンサルテーションも実施しています。

新しく流通を開拓していく海外でも、現地の販売店や代理店に、商品ばかりでなく、INAXの企業姿勢や環境活動を伝えると同時に、現地の商流や慣習、社会情勢について情報を得ながらコミュニケーションを深め、良好な関係構築に努めています。

※1 nic会：NEW INAX Communication の略。会員の経営体質向上と会員とINAXとのグループ力向上を目的に、意見交換や会員への教育支援活動、会報誌の発行などを行っている

施工店との取り組み

◆ネットワークの構築

リフォーム・増改築専門店の全国ネットワーク「LIFA（ライファ）」や、リフォーム施工店を紹介する「INAXリフォームネットワーク」などを通じて、お客さまに施工店を紹介しています。また、リフォームに関する豊富な知識や経験を備えた専門家を「リフォームコンシェルジュ」として認定し、情報を提供するなど、施工店とパートナーシップを組んで、お客さま満足の向上に努めています。

◆施工技術やリフォームスキルの支援

「INAXテクノトレーニングセンター※2」では、施工業者や販売店に対して商品に関する研修を行っています。2008年度は、延べ12,440名が実習し、そのうち7,395名が社外関係者の利用でした。研修に際しては、取引先の商材やネットワークに応じたオーダーメードの研修プログラムでの対応も行い、ヨーロッパをはじめ海外展開しているショールームの施工のための技術指導も実施しました。

また、リフォーム需要が拡大するなか、お客さまの信頼を得るために販売店や施工業者が身につけておきたいスキルのレベルアップを支援する「リフォーム塾」も開設しています。施工技術や建築知識だけでなく、ヒアリングやマナー・応対など、リフォームのクオリティを支える人材育成も視野に入れた講座で、実際の木造住宅を使った現地調査研修 a も行っています。築60年ほどの木造住宅ならではの特長をいかし、耐震補強など構造の確認も可能です。2008年度は、新たにマンションリフォームに対応する研修も開始。継続してプログラムの充実、施設の改善に取り組んでいます。

※2 INAXテクノトレーニングセンター：約4,800㎡の館内に研修室、建材・住宅設備機器施工実習室、商品体験展示室を持つ愛知県常滑市の総合研修施設

・「リフォーム塾」ホームページ
http://reform-juku.inax.co.jp/

◆タイル施工専門学校「INAX建築技術専門校」

タイル施工のスペシャリストを養成する日本で唯一の専門学校「INAX建築技術専門校b」は、2008年12月1日から3カ月間、定住外国人を対象とした職業訓練を実施しました。これは、定住外国人を対象にした厚生労働省のモデル事業として、愛知県が推進する活動として委託されたもので、期間労働者や派遣社員として勤めていた日系ブラジル人14名、ペルー人1名、中国人1名の計16名の訓練生を受け入れました。2009年度も5月から国内認定訓練生16名のほか、韓国人代理店生、ベトナム人研修生、定住外国人など多数の生徒の受け入れを行う予定です。

・「INAX建築技術専門校」ホームページ
http://www.inax.co.jp/iita/

a

b

情報の発信・提供

ビジネスユーザー向けホームページ「いいナビ」では、カタログ請求や商品への問いあわせ対応はもちろん、登録ユーザー向けに取扱説明書などのほか、コーディネートプラン提案に活用できる商品画像や見積作成のためのプランニングツールなど、設計に役立つ情報を掲載、発信しています。また、建築から生活文化を探求する季刊誌「INAX REPORT」を、設計者や建築家向けに発行しています。

・ビジネスユーザー向け「いいナビ」ホームページ
http://iinavi.inax.co.jp/

・「INAX REPORT ON THE WEB」ホームページ
http://www.inaxreport.info/

物流部門の取り組み

協力物流会社とともに物流品質向上を推進する組織「INAX安全輸送研究会IST（INAX Safety Transport）」は「安全」、「品質」、「環境」を三位一体にした活動を展開しています。年次総会では、経営体質・輸送品質・環境活動などを総合評価し、優秀な協力運送会社を表彰しており、2008年5月開催の総会には47社、約100名が参加、品質改善とエコドライブの取り組みについて、運送会社3社が事例発表しました。また、2008年11月～12月には東京・大阪・名古屋で「輸送品質改善大会」を、全52社を対象に150名の参加で開催、11社が活動事例を発表し、事例の水平展開・情報交換を図りました。

安全の取り組みでは、トラック輸送ばかりでなく、構内を行き来するフォークリフトの「安全運転と安全操作」の向上にも努めています。毎年「フォークリフト安全運転競技大会」を開催し、2008年11月に取引会社も含め20名が運転操作技術を競い、外部審査員による審査を行いました。

◆環境活動　エコドライブとアイドリングストップの推進

2008年7月1日から、知多物流センター内に「ドライバー仮眠室」を開設、ドライバーの方々に開放し、待機車両のアイドリングストップを実践し、CO_2排出量削減に取り組んでいます。この仮眠室の設置は、ドライバーの健康管理・安全衛生に配慮し、より安全な運送も目的としています。

また、燃費向上を目指したエコドライブ講習会c、dを2008年8月3日、11月1日に開催し、24社51名のドライバーが参加しました。ドライバー自身がエコドライブを実践し、燃費向上を体験しました。

c

d

Column

新しい仕事にチャレンジする日系ブラジル人訓練生

オザワ ウエリントン ロドリゴさん

ブラジルの高校を卒業してすぐ19歳で来日し、以来16年間知立市に在住。部品メーカーに勤めていましたが、2008年10月に契約が切られ、ハローワークで職業訓練の研修コースを知り応募し、「INAX建築技術専門学校」の職業訓練に参加しました。タイル張りはもとより建築工事の経験はまったくなく、難しいですが、この仕事はおもしろく好きです。日本語で専門用語も勉強し、ある程度、タイル張りの仕事を覚えることができたので、新しい仕事にチャレンジしたいです。4月からは、ここで学んだ技術をいかして就職活動をするつもりです。

Column

ドライバー仮眠室

事業本部 物流部 物流業務課 課長
江崎誠治

INAXでは、効率的な輸送のため、愛知県知多半島エリアの各工場で生産された商品を知多物流センターに集約しています。知多物流センターでは、1日平均、約150台のトラックの出荷があり、荷物の積み込みの合間に待機時間が発生します。環境配慮面と安全な運転を行うために、ドライバーが十分な休息がとれるよう、リクライニングチェアのある仮眠室と休憩室のある専用建物を開設。物流センターを利用する運送会社のドライバーは誰でも利用できます。利用者からは、「こんな施設はINAXが初めてです」、「快適でゆっくり休める」との声も届いています。

地域社会とともに

2008年度の社会貢献活動

2008年度の社会貢献活動

INAXは、ボランティア休暇や休職規定を通じ、個人としての社会貢献活動を支援するとともに、INAXならではの技術や文化の蓄積、地域性をいかした社会貢献活動に取り組んでいます。

2008年5月からは、愛知県「海上の森」と三重県伊賀市で、社員のボランティア参加による森林保全活動「森でeこと」もスタートしました。

また、ベトナムでも、継続して現地のNGOと協力しながら、子どもたちに向け、ベトナムの実情にあった水の環境教育を実施しています。

INAXは地域に根ざした地道な活動を継続することで、企業市民としての役割を果たしていきます（詳細DATA29ページ参照）。

市民活動・イベントへの参加・支援

本社のある愛知県常滑市では、常滑焼まつりなどのイベントへの協賛をはじめ、本社社屋や「INAXライブミュージアム」などの施設をいかした活動を実施しています。また、全国の事業所でも市民祭りへの協賛やイベントへの出展、交通安全活動、安全衛生活動といった社会貢献活動を実施しています。春や秋の「全国交通安全運動」キャンペーンへの参加aのほか、愛知県常滑市の大谷工場や三重県伊賀市の上野事業所では、毎月、社員による交通安全立哨活動が定例化しています。各事業所がそれぞれの単位で、地域の活性化や安全を守る活動に参加しています。

2008年度のおもな市民活動・イベントへの参加・支援

11月1日開催の高校駅伝で知多事業所のトイレ施設を提供
上野事業所では、毎年開催される「伊賀市夏祭り」に今年度も参加。アートモザイクやどろだんごづくりなどの体験展示を楽市に出展。来場者は300名以上
大谷工場は、毎月0のつく日に10数名が立哨時に「シートベルトの着装」・「スピード注意」を通行車両に啓蒙
「INAXライブミュージアム」では、12月20日に第9回「ムジカセラミカコンサート」（バイオリニストの佐藤陽子さんほか）を、2009年1月12日に第11回「New Year Concert」（バロック演奏会：オランダ・ハーグ王立音楽院リュート指導者 佐藤豊彦さんほか）を開催
地域活性化と防犯活動の一環として、本社ビル西駐車場に鯉江本町町内会・JALスカイ中部空港支店と協同でイルミネーション設置（点灯期間：11月28日～2009年1月31日）。今回からLEDイルミネーションも追加し、点灯式には地域住民など約100名が参加 b

a

b

教育支援活動

INAXならではのセラミック技術や設備を活用した、次世代育成活動に協力し、各工場ではインターンシップや工場見学を受け入れています。また、知的障害者支援活動として、尾道工場で梱包や簡単な金具の組立作業を発注したり、江別工場で障害者のつくったパンを販売するなど、ダイバーシティに結びつく活動も行っています。

2008年度のおもな教育支援活動

各地域の教育委員会に協力し、各工場や物流部門などで、高校、高専、大学生のインターンシップや中学生の職場体験実習を受け入れ。6月上野農業高校4名、7～8月上野工業高校8名、和歌山高専2名、鈴鹿高専1名、11月常滑高校3名、4月から山辺高校1名
高校・大学・各種法人の工場見学に積極的に対応。7月名古屋市立向陽高校、9月半田養護学校、有田窯業大学校、10月（財）海外技術者研修協会、一宮工業高校、11月都立産業技術高等専門校、愛知県理科教育研究会高等学校部会、2月横浜市大・日大、東工大、農林水産省東海農政局など
常滑市教育委員会の体験事業「わがまち ふるさと体験隊」に1999年の発足以来参画、7月6日に「INAXライブミュージアム」にて体験学習を実施
南知多町立篠島中学校の卒業記念のタイルアート作品設置にあたり、作品制作（タイル張り）指導およびタイルの提供（有料）
陶磁器にかかわるクリエーター養成を目的とした多治見市陶磁器意匠研究所「セラミックスラボ」研修生の「陶磁器生産システム調査演習」に協力。5月20日榎戸工場・「INAXライブミュージアム」見学
蒲郡青年会議所青少年育成事業「蒲郡・生命の海科学館」の壁面タイルアート作品（2m×10m）設置の施工に「INAXテクノトレーニングセンター」が協力。7月20日現地で立ち会い指導も実施 c、d

c

d

Column

バロック演奏会 第11回「New Year Concert」

設備事業部 商品開発部 商品企画課 デザイングループ
都築秀昭

毎年1月に、3人の演奏家による古楽器（リュート、リコーダーなど）のバロック音楽の演奏会を「INAXライブミュージアム」にて開催しています。その実行委員として企画・運営にたずさわり、今年で4年目になります。今年もカンタータを紹介する演目を企画し、100名ほどの人に来場いただきました。もともと何かを企画して人を喜ばせることが好きだったので、この演奏会の運営に参加しました。宣伝や集客など、思うようにいかないことも多いですが、自分たちで企画・準備した演奏会でみなさんに楽しんでいただけることをとてもうれしく思っています。

この演奏会は実行委員だけでなく、演奏者や地域のボランティアなど、多くの人に協力いただいて開催しています。人のやさしさに触れながら、毎回温かな気持ちで運営できているのも実行委員を続けている理由のひとつです。これからも多くの人に楽しんでいただける素敵な演奏会を開催していこうと思います。

環境美化・地域清掃活動

全国の事業所では、定期的に社員が参加し、事業所周辺の清掃活動を自主的に展開しています。

江別工場では工場周辺の清掃を毎朝、榎戸工場や半田工場では最寄駅や工場周辺の清掃を毎週実施しているほか、九州INAXや筑波工場などでも事業所周辺の清掃は月例化しています。支社・営業所でも地域清掃が定着しつつあり、環境月間や地域のクリーンアップ活動などに積極参加しています。関西統括支社が参加する「クリーン大阪2008e」は今回で8回目となり、INAX大阪ビルの社員約150名が活動しました。また、常滑市内の24団体・個人で中部国際空港をより美しくするため「セントレアライン美化活動協議会」が4月11日に発足、INAXは事務局を担当し清掃活動 f にも継続して取り組んでいます。

このほか自治体や地域の環境活動にもかかわっています。上野事業所では、伊賀市環境保全市民会議に月例で参加し、伊賀市の環境問題勉強会や地域の行事計画作成に参画。知多事業所では、知多環境対策連絡協議会の会長職を務め、2月に研修会を企画、運営しました。

e

f

そのほかの活動

事業所ごとに、献血や募金などの福祉活動も行っています。また本社部門が統括し、全国の事業所から「古切手」や「プリペイドカード」、「未使用の手帳・カレンダー」を集め、切手は、(社)日本キリスト教海外医療協力会へ、カードは、(財)ジョイセフへ、手帳などは、NPO日本災害救援ボランティアネットワーク、(財)長崎県国際交流協会 、(財)かごしまみどりの基金へ寄贈しました。社員一人ひとりの小さな善意を集める活動も推進しています。

また、本社のある常滑市では、花火大会など地域イベントへの協賛などのほか、常滑国際交流協会、常滑市民吹奏楽団、常滑市文化協会などの団体に企業会員として登録、一部に役員として就任し、地域文化振興にも寄与しています。

2008 年度のそのほかの活動

上野事業所チャリティゴルフ開催。チャリティ募金を災害義援金として活用
上野事業所の各工場（伊賀上野、上野緑、青山）、および筑波工場では、春と秋に献血を実施、178 名が協力
上野事業所で、緑の募金を実施。三重県緑化推進協会に約 108 千円寄付
UNEP（国連環境計画）が、1991 年から開催している「世界環境フォトコンテスト in Airport セントレア（中部国際空港）」写真展に協賛。今年度は、世界環境デーに合わせて7つの国際空港で同時開催された。6 月 5 日～ 22 日

労働組合の社会貢献・ボランティア活動事例

労働組合の社会貢献・ボランティア活動事例

2008 年 4 月、みはま福祉会主催「あぜーりあ祭り」にバザーを出店し、売上金 77,840 円を「社会福祉法人みはま福祉会セルプアゼーリア」へ寄付
2008 年 5 月、知多地区にて、地域開放型イベント「ユニオンフェスティバル」開催
2008 年 5 月、上野地区にて、地域開放型イベント「INAX 上野地区フェスティバル」開催（労使共催）
2008 年 7 月、茨城地域にて、筑波山の環境美化活動として清掃活動を実施 g
2008 年 8 月、「常滑焼まつり」後の常滑駅周辺の清掃活動として、「常滑市クリーン作戦」を開催。知多地域労働組合にて総勢 65 名（うち INAX 労働組合 20 名）にて実施 h
2008 年 12 月、知多地域にて、「歳末たすけあい」募金を実施し、常滑市（厚生事業団・児童擁護施設 2）・知多市・半田市の社会福祉団体へ 226,932 円を寄付
名古屋市金山駅清掃活動を年 2 回実施

g

h

Column

九州INAX鹿島工場「厚生労働大臣感謝状」佐賀工場「日本赤十字社佐賀県支部長感謝状」献血功労賞をダブル受賞!

INAXの主要子会社である九州INAXには、おもに衛生陶器を生産する鹿島工場とシステムバスルームや浴槽などを生産する佐賀工場があり、両工場の社員が年に3回、献血に協力しています。佐賀県の献血センターがバスで昼休みに来社し、鹿島工場で約50名が、佐賀工場では約30名が各回献血に自主参加しています。佐賀工場は2008年で5年目、鹿島工場は20年間継続してきました。2008年8月3日、積極的に献血活動へ協力した佐賀県内の企業・団体として、鹿島工場が「厚生労働大臣感謝状」を、佐賀工場が「日本赤十字社佐賀県支部長感謝状」をそれぞれ授与されました。表彰式は、佐賀市ゆめタウン佐賀で開催された献血ふれあいフェスタの会場で行われましたが、同一企業で複数の事業所が表彰されたのは九州INAXだけでした。九州INAXでは、今後も地道に活動を継続し、地域社会に貢献していきます。

文化活動の報告

ギャラリー、出版、ブックギャラリー／INAXライブミュージアム

INAXは「企業は経済機関であるとともに、文化機関でなければならない」と考え、東京・銀座を中心としたギャラリー活動と、本社のある愛知県常滑市でミュージアム活動を展開しています。

ギャラリー、出版、ブックギャラリー

ギャラリー1、ギャラリー名古屋、ギャラリー大阪では、「建築とデザインとその周辺をめぐる巡回企画展」を、ギャラリー2では、平面・立体から映像作品まで分野を超えた「現代美術個展」を、そしてガレリアセラミカでは新進作家の「やきもの個展」を開催しています。
巡回展で開催した「デザイン満開　九州列車の旅」では、JR九州のデザイン顧問、水戸岡鋭治氏が手がけた、斬新な10種類の列車を通して、「旅する空間」の新たな楽しみ方や魅力を紹介しました。

ギャラリー 1、ギャラリー名古屋、ギャラリー大阪

巡回企画展一覧

2007 年 12 月～ 2008 年 8 月	工作の時代　ー『子供の科学』で大人になったー
2008 年 3 月～ 2008 年 11 月	クモの網　ー What a Wonderful Web! ー a 撮影：北村光隆
2008 年 6 月～ 2008 年 12 月	オコナイ　湖国・祭りのかたち b 撮影：北村光隆
2008 年 9 月～ 2009 年 5 月	デザイン満開　九州列車の旅 c 撮影：北村光隆
2008 年 12 月～ 2009 年 8 月	考えるキノコ　ー摩訶不思議ワールドー d
2009 年 3 月～ 2009 年 11 月	チェコのキュビズム建築とデザイン 1911-1925　ーホホル、ゴチャール、ヤナークー

a

b

c

d

ギャラリー 2

現代美術個展一覧

2008 年 4 月	北城貴子 展 ー holy green ー（平面）e
2008 年 5 月	石川直樹 展 ー VERNACULAR 世界の片隅からー（写真）
2008 年 6 月	柴田鑑三 展 ー光臨する森羅ー（立体）
2008 年 7 月	下西進 展 ーI am、I am ー（映像）
2008 年 8 月	10days セレクション 山本務 展（インスタレーション）f 松田直樹 展（インスタレーション）
2008 年 9 月	田淵裕一 展 ー輪郭の幻影　光栄堯夫歌集「姿なき客人」からー（立体）
2008 年 10 月	辻けい 展 ーあか から あかへ　Red like the spring water ー（インスタレーション）
2008 年 11 月	母袋俊也 展 ー窓ー像 KY OB AS HI ー（平面）
2008 年 12 月	山本彩 展 ー憧憬・ドローイングー（インスタレーション）g
2009 年 1 月	水野勝規 展 ーグレースケール・ランドスケープー（映像）
2009 年 2 月	カン・イング 展 ーバラスとワイヤーの天地ー（インスタレーション）
2009 年 3 月	湯浅克俊 展 ー版・モノクロームの深度ー（平面）

INAX ガレリアセラミカ

やきもの個展一覧

2008 年 4 月	宮永春香 展 ー白陶　やわらかく編むー
2008 年 5 月	安達知亨 展 ー白い陶磁　幾何学の感情ー
2008 年 6 月	児玉衣未 展 ー陶　いのち芽吹くかたちー
2008 年 7 月	玄尚哲 展 ー陶　青緑のうねりん体ー
2008 年 8 月	ガレリアセラミカの夏　器・小さなオブジェ・道具展
2008 年 9 月	小島修 展 ー陶塊のきらめきー
2008 年 10 月	関口貴仁 展 ー朱彩壺 Patterns in red ー
2008 年 11 月	矢本章子 展 ー陶 緑青の新化石ー h
2008 年 12 月	田上真也 展 ー陶 青いふちの球形ー i
2009 年 1 月	高岡太郎 展 ー筒・集・積ー
2009 年 2 月	野口美香 展 ー黒・絡み、くねる陶ー j
2009 年 3 月	秋永邦洋 展 ー黒の立体陶・植物紋のかたちー

e

f

g

h

i

j

出版

INAX 出版

2008 年 4 月	『藤本壮介 ー原初的な未来の建築』
2008 年 6 月	『オコナイ 湖国・祭りのかたち』 『モノリス　真下の宇宙 ー 1cm100 年の土のプロフィール』
2008 年 9 月	『ハウジング・フィジックス・デザイン・スタディーズ k』 『石上純也ーちいさな図版のまとまりから建築について考えたこと』 『乾久美子ーそっと建築をおいてみると』 『デザイン満開九州列車の旅』
2008 年 10 月	『建築と植物』

2008 年 12 月	『OURS: 居住都市メソッド I』 『考えるキノコー摩訶不思議ワールドー』
2009 年 1 月	『ゆらぎ モザイク考ー粒子の日本美』
2009 年 3 月	『建築の四層構造』 『チェコのキュビズム建築とデザイン 1911-1925 ーホホル、ゴチャール、ヤナークー m』

k

l

m

Column

2008年6月～2008年12月 巡回展「オコナイ 湖国・祭りのかたち展」について

長浜市長浜城歴史博物館館長
中島誠一さん

オコナイ？、このテーマを選んだ INAX さんに敬意を表します。また未知の世界に身を投げ込み、展示を遂行したスタッフの蛮勇にも心底「ありがとう」を送ります。いかに若いメンバー構成とはいえ、寒い、長い、遠いの現地調査三点セットに違いはありません。支えたのは、きっと旅人の眼差し、好奇心、そして近江人の温かさだったのでしょう。展示にはくっきりとその部分が表現されていました。近江のさまざまな（風変わりな）神饌、つくる人々の真剣な眼差し、共同体の笑顔、酒の臭い、博物館で表現しなかった祭りのカオスが展示にはありました。

Column

2008年11月ギャラリー2 アーティストに聞く

美術家・東京造形大学教授
母袋俊也さん

当初の展覧会依頼は、2007 年の改装工事の時期にむけてのものだった。工事に伴い開口部から望める“京橋の風景”と僕の活動＝風景を切り取る「絵画のための見晴らし小屋」と TA 系絵画の連携＝を、大胆に可能性を拓く提案であった。
スケジュール上断念せざるをえなかったことは今でも惜しまれる。2008 年改装後二階に移ったギャラリーでは、京橋をモデルに描いた 10 mを越す「TA・KY OB AS HI」が、室内に設営された「見晴らし小屋」の窓によって切り取られ、その像がさらに新たな「絵画／像」へとシミュラークルに連鎖していく「像・Bild」の循環が試みられた。それは都市風景を対象とした初めての試みであり、提案に対する一年遅れの解答でもあった。

INAX ライブミュージアム

2008年度も「INAXライブミュージアム」は、「発見と継承」をキーワードに体験教室やワークショップ、企画展を開催し、68,000人を超える来館者に、さまざまな活動を楽しんでいただきました。これらの活動や施設が評価され、第2回キッズデザイン賞（コミュニケーションデザイン部門）を受賞しました。

「窯のある広場・資料館」2階常設展示リニューアル n（2009年 1月）

施設としては最も古く1986年開館当初から、白い地に藍色で花や鳥が描かれた「染付古便器」の展示は人気を博してきました。今回、2階の常設展示をリニューアルしました。「染付古便器」をより深く理解いただくために、写真や解説を添えてその歴史や変遷を紹介するとともに、展示もガラス越しではなく、じかに美しい藍の色あいをご覧いただけます。

ミュージアムショップリニューアル（2008年6月）

世界のタイル博物館内のミュージアムショップのリニューアルとともに、新しいオリジナルグッズを揃えました。収蔵品からセレクトした100種類のタイルをモチーフにしたポストカードやてぬぐい、ステーショナリーなど来館の思い出にもなるグッズです。

企画展「焼き物の街・常滑 1963-64 年シリーズより 山田脩二の写真・軌跡」開催 常滑を再発見

今年度は創業地「常滑」を意識し、地域に目を向けた活動を推進しました。2008年11月には、若き日の山田脩二氏の撮った常滑の写真展を開催し、写真集を発行。窯業で活気づく高度経済成長期直前の元気な常滑の姿が「土・どろんこ館」企画展示室によみがえりました。会期中は「土・どろんこ館」を無料開放し、広く地元の方にも来館いただきました。

ワークショップの充実

「土・どろんこ館」で好評の「光るどろだんごづくり」は、リピーターも訪れ、子どもから高齢者まで楽しんでいただいています。小さな子どもにもつくりやすいひとまわり小さな「ちびだんご」に加え、2008年春からは、季節ごとにかわる限定色 o が登場。春の「さくら色」や冬の「雪色」など、どろだんごの幅も広がりました。また、昨年から「陶楽工房」で開催している「モザイクアートコンテスト」を2009年3月にも実施。「春の記憶」をテーマに、1cm四方のカラフルなモザイクタイルと紙や植物、小石などさまざまな素材を使って、42組の55人がオリジナルアート作品を表現。表彰式後、作品は陶楽ギャラリーに展示しました。

n

o

「ものづくり工房」建築復原協力、技術支援

「ものづくり工房」は、阪神淡路大震災で被害を受けた西宮市の芝川又右衛門邸の明治村への移築・復原に協力(2008年春)しました。西洋化の進む明治初期の建築ですが、畳の和室にビクトリアンタイルを用いた暖炉を設置するなど日本の伝統にも目を向けた建物でイギリスのタイルが大胆に展開されています。この暖炉まわりのビクトリアンタイルやトイレ床のタイル、バルコニーに使用されていたタイルを復原。また、常滑東工場の協力で長さ約90cmの煙突も復原しました。このほか、M.C.エッシャーの世界をやきもので表現したり、ジオ・ポンティ設計の聖フランチェスコ教会外壁タイルの修復のための技術支援(関連記事22ページ BRAND TOPICS 03参照)などを行いました。

「INAX ライブミュージアム」企画展

企画展一覧

2007年11月23日～2008年5月20日	「染付古便器の粋 ー清らかさの考察」
2008年6月7日～10月19日	「モノリス・真下の宇宙 ー 1cm100 年の土のプロフィール」
2008年11月1日～12月7日	「焼き物の街・常滑 1963-64シリーズより 山田脩二の写真・軌跡」
2008年12月4日～2009年3月31日	「20 世紀のタイルのかたち ーM. C. エッシャーに観る「無限」の表現」a
2009年1月10日～6月16日	「ゆらぎ モザイク考ー粒子の日本美」b

a

b

All M.C.Escher works© Escher Company B.V.-Baarn-The Netherlands/Huis Ten Bosch-Japan.

企画展関連イベント

2008年4月26日	荒川正明氏講演会「染付磁器の魅力ー景徳鎮から伊万里、そして瀬戸へ」
2008年6月7日	平山良治氏、中井信氏による「モノリス・真下の宇宙展」レクチャー
2008年9月28日	土壌採取&モノリス製作ワークショップ「自分でつくろう!土壌モノリス」c
2008年11月1日	山田脩二氏トーク
2009年2月21日	対談　久住有生(左官職人)×後藤泰男(ものづくり工房)

やきもの新感覚シリーズ

2008年4月10日～5月4日	第69回 柏野紀文 展 ー楽し器 嬉し器ー d
2008年5月10日～6月4日	第70回 小島修 展 ー陶塊のきらめきー
2008年6月10日～7月4日	第71回 角倉起美 展 ー祝祭の輝器ー
2008年7月10日～8月4日	第72回 畑絢子 展 ーツキノハナの陶景ー e
2008年8月10日～9月4日	第73回 樋口健彦 展 ー黒い陶ー
2008年9月10日～10月4日	第74回 ガレリアセラミカの7人展 ー2007年セレクションー

そのほかのイベント、ワークショップ

2008年夏休み期間の土曜日	みんなでどろ遊びーどろんこ広場で遊ぼう!
2008年7月20日	光るどろだんご知多地区予選
2008年8月10日	光るどろだんご全国大会
2008年12月20日	ムジカセラミカ　クリスマスコンサートin常滑
2009年1月17日	ニューイヤーコンサート2009　カンタータのタベ
2009年3月20日～22日	モザイクアートコンテスト開催(陶楽工房) f

c

d

e

f

Column

「INAXライブミュージアム」企画展「焼き物の街・常滑 1963-64年シリーズより 山田脩二の写真・軌跡」によせて

山田脩二さん

写真撮影：鷹野晃

今回展示した写真は、40 年以上前、20 代前半の頃に撮影したものです。が、スポンサーからの依頼取材ではなく自分自身のために撮った写真です。大量に雑多な焼き物が製造される“常滑”の街の人々の様子・光景に深く接したい･･･と歩きまわりました。焼き物の街で自分自身にも“焼き”を入れたい･･･という気分もありました。

40 数年のときを経た今、常滑の地元で写真展を開催でき、たいへんに感慨深いです。当時、常滑の街と暮らし、人々が生業としていた焼き物造りの光景をリアルタイムで知っている世代の人たちに懐かしく見てもらい最高にうれしかったです。企業は雑多なものを整理整頓・合理化することが常に不可欠ですが、当時の、ある意味で“雑多な常滑”の地場のアイデンティティー、“ものづくりの精神”を大切に残し伝えていこうとするー伊奈・INAXーの取り組み、姿勢に敬意を表し、今後も、常滑を代表するユニークな豊かな表情の顔の企業であってほしいです。

社員とともに

INAXグループの構成員／ダイバーシティの推進／人材育成・教育支援／労働安全衛生／社内コミュニケーション／労働組合活動

INAX グループの構成員

INAXならではの質の高い魅力あるサービスや商品を生み出し続けるためには、個性ある優秀な人材が必要であると考えています。これまでも出身校や性別などにこだわらない採用を行ってきましたが、今後もさらに柔軟な人材確保を進めていきます。

社員数と社員構成（2009年3月31日現在）

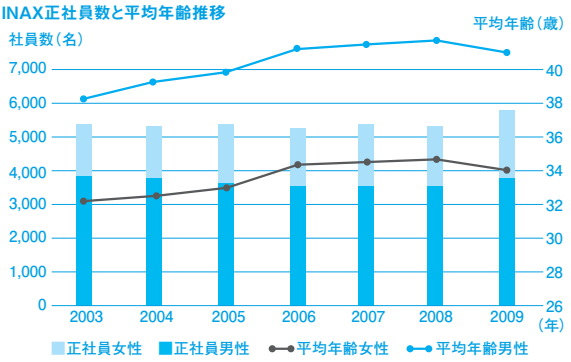
◆INAX稼動人数（平均年齢／平均勤続年数）

正社員 男性	3,826名（41.0歳／17.5年）
正社員 女性	1,975名（34.0歳／10.5年）
正社員 合計	5,801名（38.6歳／15.1年）
嘱託・パートなど	326名
派遣社員	1,100名
協力会社請負社員	2,319名
稼動人数合計	9,546名

◆INAXグループ稼動人数

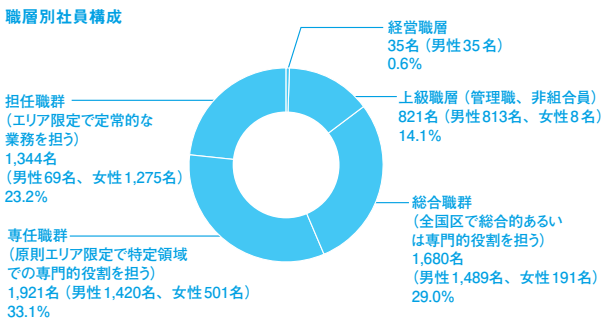
国内連結対象子会社13社合計	3,563名（内正社員1,821名）
海外連結対象子会社7社合計	2,752名（内日本人32名）
INAXグループ合計	15,861名

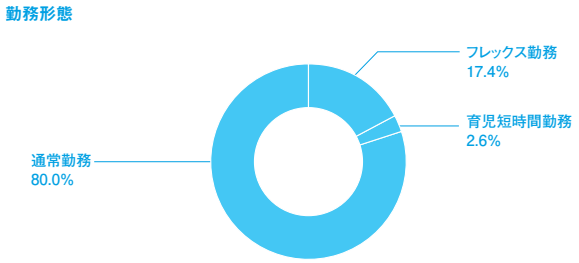
※重複カウントを避けるため、出向者は出向先の稼動人数としています



◆INAX社員構成の補足

取締役・監査役	21名
組合員	5,045名（出向者含む）
外国人	中国3名、韓国1名、エジプト1名
障害者雇用率	1.85%（実人数76名）
再雇用率（定年退職者）	84.8%（実人数95名）
離職率（入社3年目社員）	17%
非正社員からの正社員登用者数	92名（パート・派遣などからの登用）
女性管理職比率	2.5%（前年比±0%）





◆就業時間（2008年4月～2009年3月）

年間所定労働時間	1,891時間／人・年
年間相実労働時間	1,997.6時間／人・年（対前年比−17時間）
月平均残業時間	18.4時間／人・月（残業取得対象者数4,081名）
有給休暇取得日数	10.0日／人・年（前年実績9.6日）

ダイバーシティの推進

INAXでは、多様な属性（性別、年齢、国籍など）や価値・発想を採り入れることで、ビジネス環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、企業の成長と個人の幸せにつなげることを目的とし、ダイバーシティ活動に取り組んでいます。活動の第一ステップとして、女性に焦点をあてた「EPOCH※活動」をスタートし、2005年10月から人事・総務部内に「EPOCH女性活躍推進室」を設置。おもに「女性の活躍促進」、「風土改革」、「阻害要因の解消」の3つの視点から活動を進めています。2008年度はさらに、ダイバーシティ推進のためには“社員一人ひとりの自律と成長”、および組織の活性化に最も必要な“コミュニケーション”を重要課題と位置づけ、活動を展開しました。

※ EPOCH：Encouraging People and improving Organizational Capabilities for High performance：高い業績を実現する人材の活性化と組織能力開発

女性の活躍促進

女性が自律的に活躍できる支援策を積極的に実行しています。

◆ロールモデルの可視化

イントラネットの「EPOCH専用サイト」トップ画面に、社内で活躍している女性たちが登場し、入社から現在にいたるまでの経験談や、後輩へのアドバイス、私生活との両立の工夫などさまざまな質問に回答しています。そうすることでロールモデルの可視化を進め、2006年4月の開設以降66名の女性が登場しました。2008年度は、リーダー層の女性10人、次世代リーダー層の女性11名、合計21名の女性が登場しました。また男性が登場する企画を新たに追加し、すでに2名が登場しています。

◆職群転換の促進

意欲を持った人材がより幅広く活躍できるよう、職群転換を促進しています。2008年は、担任職から専任職へ35名（男性13名、女性22名）、専任職から総合職へ3名（男性2名、女性1名）が転換し、人事制度改革以前の2005年度と比較して、2.5倍の人材が転換を果たしました。

◆「EPOCHリーダー研修」の実施

役職登用者、リーダークラスの女性を対象に、「EPOCHリーダー研修 a 」として、“ビジネス社会でのコミュニケーション”をテーマに、コーチング、論理思考・創造思考、リーダーシップ、自分を源泉としたマインドセットなどの研修を実施しています。2007年6月の導入以降43名が受講し、2008年度は14名が受講しました（1コース2日×3回／半期）。

「研修参加者の声」

研修で他部署の方と出会えたことは大いにプラスでした。どうしても狭い世界に閉じこもりがちな部署ですので、今後も後輩メンバーの参加にむけて積極的に動いていきたいと思います。また、自分自身にとってもマネージメントやマーケティングについて学ぶ良い機会でした。これで終わりではなく、これをきっかけに自分なりに学んで、実践にいかしていきたいと思います。

◆異業種合同研修の実施

社外ネットワークによる視野の拡大を目的に、異業種合同研修を実施しています。

2008年度は、おもにキャリア開発やヒューマンスキル研修として、東京で5講座、名古屋で3講座を実施し、計43名の女性が受講しました。

風土改革

多様な価値観を戦力に変えていこうとする風土をつくるために、経営トップの発言を社内に発信するほか、イベントや啓蒙活動を進めています。

◆「INAX QUALITY AWARD」でのEPOCH表彰

「仕事の質、仕事のプロセス」の面で特に優れた部門を表彰する「INAX QUALITY AWARD」において、EPOCH賞を設置しています。単に女性というだけでなく、短時間勤務者やシニア層などが活躍できる仕組みを具現化し実践しているグループや、多様な人材でグループ編成をしたことによりシナジーが生まれた事例を、ベストプラクティスとして表彰しています。

◆イントラネット・社内報での情報発信

イントラネットに専用のページを設け、EPOCH活動の狙いや取り組みのほか、社内の男性・女性のロールモデルの提示、相談窓口、お薦め本の紹介、仕事と育児の両立に役立つ情報などを定期的に更新し、発信しています。2008年度は平均4,500件／月のアクセスがありました。また、全社社員満足度調査の結果などもイントラネットや社内報で報告し、社内開示しています。

◆意識啓発冊子「質を追究する組織をめざして」の配付

2008年10月に、社員一人ひとりの自律と成長を目的とした意識啓発冊子、「質を追究する組織をめざして～一人ひとりの自律と成長のためのヒント～ b 」を社員全員に配付しました。“自律型人材になることの重要性”、“組織人として成長するためのヒント”、“キャリアの考え方、マネジメントのコツ”について、全テーマ共通の“コミュニケーション”、実際の行動につなげるための“ヒント”を多数紹介しています。

a

b

働きやすい環境の整備（阻害要因の解消）

属性にかかわらず働きやすい環境づくり、私生活との両立をサポートする視点から、人事制度や両立支援制度の整備を進めています。

◆相談窓口

イントラネットの「EPOCH専用サイト」に相談窓口を設置しています。相談者の名前の公開・非公開、内容の公開・非公開を選択して相談できます。

◆復職カウンセリング制度の新設

2008年4月から、産休・育児休業復職者に対して、上司・本人による復職前面談内容を人事・総務部にて確認、また人事担当者も加わっての復職後面談を実施しています。復職後面談ではおもに育児経験を持つ人事担当者が面談に加わり、復職後の働き方のアドバイスや、復職者のソフト面のフォローを行い、スムーズな復職と即戦力化をサポートしています。

◆産休・育児休業中の社員との「Webコミュニティ」開設

産休・育児休業者が安心して復職でき、復職後も即戦力として活躍できることを目的とし、自宅のパソコンや携帯電話からアクセスできる「Webコミュニティ（SNS）」を2008年5月に開設しました。人事異動、組織変更、ロールモデルの紹介、社長のブログなどを随時更新、同じ経験を持つ社員や会社とのコミュニケーションをとることで、よりスムーズな復職を促しています。2009年3月末時点での登録者は75人、平均2,600件／月のアクセスがありました。

社外からの評価

◆「平成20年度愛知県ファミリー・フレンドリー企業表彰」受賞
「次世代育成支援対策推進法」認定取得

多様な両立支援策の展開や、社員の制度利用実績が愛知県から評価され、「平成20年度愛知県ファミリー・フレンドリー企業表彰 c 」を受賞しました。

また、2009年6月、愛知労働局長から「次世代育成支援対策推進法 d 」の認定を取得しました。これは2007年4月から2009年3月までの第2期行動計画の目標を達成したことによるものです。

c

d

両立支援制度（ワーク・ライフ・バランスの促進）

◆両立支援制度の利用状況 〈 〉内は前年実績

育児休業制度利用者数 58名（男性3名、女性55名）〈57名〉
（子どもが1歳6カ月に達するまで取得可能）

育児短時間勤務制度利用者数 53名（すべて女性）〈58名〉
（子どもが小学校1年生満了まで1日2時間まで就業時間短縮が可能）

カムバック・エントリー制度利用者数（正社員） 0名〈3名〉
（結婚や育児など、やむを得ない理由により退職した社員の再雇用制度）

転居者活用制度利用者数　7名〈6名〉
（地域採用の社員が配偶者の転勤などで転居する際、条件次第で異動を認める制度）

介護休業制度利用者数　0名〈7名〉
（最長1年間まで取得可能、休業中は無給）

介護短時間勤務制度利用者数　1名（女性）〈1名〉
（1日2時間までの就業時間短縮が最長1年間まで可能）

ボランティア休暇制度利用者数　5名（延べ17日）〈5名〉
（年間12日以内の有給休暇取得可能）

◆リフレッシュ休暇制度の拡充

1991年から「永年勤続者旅行休暇制度」を設けて、男性50歳、女性45歳には休暇取得の奨励とあわせ、旅行費用の支給（25万円）を制度化していました。2008年3月の春闘で、年次有給休暇の取得促進とワークライフバランス支援を目指す労働組合から、制度拡大の要求が提出され、妥結し、改定しました。2008年6月から、満30歳・40歳・50歳の社員に休暇取得を推奨し、対象者には、下記の金額が支給されました。取得対象者数は、30歳167名、40歳268名、50歳105名で、全体での取得率は75.7%でした。

30歳　2日の所定休日を含む5連休、5万円支給
40歳　2日の所定休日を含む5連休、10万円支給
50歳　4日の所定休日を含む9連休、25万円支給

※旧制度の男性 50 歳・女性 45 歳は男女 50 歳に統合
※嘱託契約社員、有期契約社員、パートタイム従業員、派遣社員は除く

人材育成・教育支援

INAXが最高の生活舞台であり続けるためには、INAXグループで働く社員一人ひとりの人材力とやる気の拡大が必要だと考え、人材育成システムで社員の成長をサポートしています。「狙って、挑戦し、達成する」をキャッチフレーズに、企業理念「INAX5」を一人ひとりの実際の行動へ落とし込むとともに、それぞれの業務に必要な知識やスキルを深め、国内外を問わず活躍できる人材の育成を目指しています。

人材育成・教育支援の実施状況

◆新入社員教育

入社式後、3週間の「新入社員導入研修」において、配属後に能力・資質が充分に発揮できるよう、社会人として、またINAX社員として必要な意識・行動・知識・スキルを身につけます。講義に加えて、経営トップと車座になっての意見交換（価値観教育）や野外でのオリエンテーリング（行動特性教育）eなどを通して、新入社員一人ひとりの具体的な行動目標に落とし込みます。

◆ビジネスリーダー早期選抜育成プログラム

社員一人ひとりのレベルアップと平行して、ビジネスを革新していくリーダー育成にも力を入れています。20代後半から4つのポイントで選抜を行い、今後のグローバルビジネス化を睨み、海外ビジネススクールへの短期留学などのOFF-JTと新たな職務への挑戦といったOJTを組み合わせて集中的な学習・経験の機会を提供していますf。

e

f

◆そのほかの集合研修・通信教育

集合研修は、ビジネス基本スキルから職種に応じた専門知識、INAX社員として必須としているコンピテンシーなど、約200のメニューをラインアップしており、INAXグループ社員が自由に応募する研修も多く用意しています。2008年度は、延べ5,725名（受講率103.9%）が受講しました。通信教育は、語学学習や資格取得のための教材に加え、マネジメントからパソコンスキルまで幅広く約180のメニューをラインナップし、社員の学習意欲にこたえています。2008年度は、延べ1,003名が受講しました。

労働安全衛生

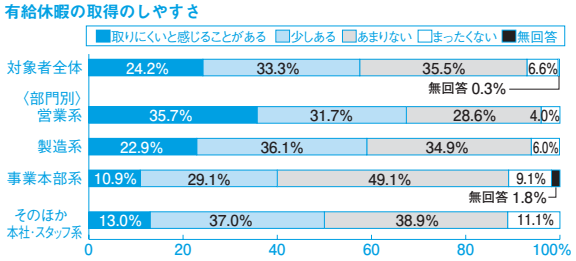
社員の安全と健康を守るために、労働安全衛生マネジメントシステムを全社で展開しています。特に生産部門・間接部門ではリスク低減活動を中心に進め、労働災害件数の削減および職場環境の改善を行っています。健康管理面では、定期的な健康診断の実施はもとより、ストレスチェックなどメンタル面をサポートする情報発信や相談、またメタボリック症候群など現在の社会環境や就労状況を踏まえた対策を検討し、実施しています。

Column

新制度対象者アンケート結果 有給休暇の取得のしやすさと職場の理解

2008 年度リフレッシュ休暇制度の対象社員にアンケートを実施しました。全体では、延期も含め 4 人に 1 人が未取得者でしたが、アンケートでは部門や年齢により取得状況に差が見られました。取れなかった理由は「少人数の部署で休暇を取りにくい」など職場環境や「子どもの受験」、「家族の健康」など家族の理由が挙がりました。取得した社員からは、仕事を前倒しにするなど周囲への配慮や、周囲の理解への感謝のコメントがたくさん寄せられました。また、成果として「長期休暇取得のきっかけになった」、「家族とのコミュニケーションが図れた」という回答が非常に多く挙がりました。ただ、制度がなければ休暇が取りにくいとの反応も 6 割近くもありました。今後も、労使ともに長期休暇が取りやすい風土づくりに取り組んでいきます。

有給休暇の取得のしやすさ



調査期間：4月4日～17日
調査方法：メール発信後、イントラネット上で回答
回答者数：338人（対象者540人のうち474人に発信、回答率71.3%）
※データ分析は、年齢・性別・部門のすべての回答があった318人分を利用

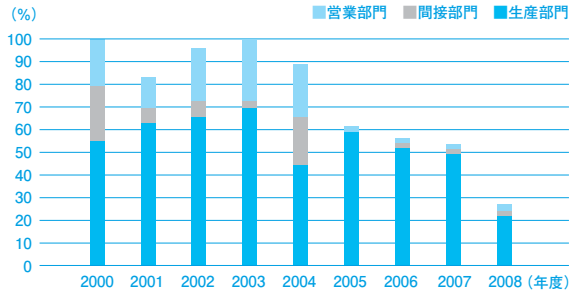
労働安全衛生の取り組み

労働安全衛生マネジメントシステムを全社で展開し、リスク低減活動を中心に、労働災害件数の削減・職場環境の改善を行っています。地震対策にも努め、防災担当者が社員の安否を確認できる「安否確認システム」を導入し、毎月1日に安否登録練習を、年に2回避難訓練を実施しているほか、すべての施設に耐震補強を実施しています。

2008年度の災害件数は2007年度比7件減、さらには災害ゼロ月が5回を数えるなど、2005年度に大幅に減少した災害件数を受け継いだ結果となりました。労働災害のうち、設備への挟まれ・巻き込まれによる休業災害はゼロで、2005年度から取り組んだ「動いている設備の事故対策」の効果が確実に現れてきています。反面、ヒューマンエラーによる災害が目立っており、今後の対策課題として取り組みます。

2007年度から設置を開始したAED（自動体外式除細動器）を、「INAX:GINZA」など、各事業所へ順次導入しています。現在、11事業所に14台設置しており、各事業所では、AEDの使い方の説明会も開催しています。

労働災害件数推移



※データ期間：4月1日～3月31日
※データ範囲：INAX、構内請負会社および子会社
※2000年度を100%とした労働災害（休業災害および不休災害）推移

◆海外子会社での取り組み

中国、台湾、ベトナムなど海外子会社の現状調査を行い、それぞれの国の法制などを理解しつつ、海外版OHSMS（労働安全衛生マネジメントシステム）の導入を開始しました。まずは中国の蘇州伊奈衛生潔具有限公司に導入しましたが、今後中国のほかの拠点や台湾、ベトナムへの展開を進めて行く予定です。

職場環境改善

職場環境第1管理区分を維持していくために、作業環境測定および個人暴露測定、降下粉じん測定を毎月実施し、環境維持管理を継続しています。また、定期的に、部門間での対策の報告会を実施し、好事例については水平展開し、さらなる職場の環境改善を行っています。

健康管理の取り組み

全国5カ所（東京、大阪、知多、上野、常滑本社）に健康管理室を設置。産業医・保健師を配置し、社員の健康相談に面談・メール・電話などで対応しています。社内報やイントラネットなどで随時社員に健康情報を提供しているほか、メンタルヘルスなどの外部相談窓口を設けています。2008年度から、メンタルヘルス活動の一環として、体の健康診断とともに心の健康診断を開始しました。子会社、関連会社についても、法令を順守しINAX基準に準じた対応を推進しています。

◆過重労働面談の実施

時間外労働が月100時間を超えたとき、または時間外労働が2カ月の平均で80時間を超えたとき、産業医による本人面談と上司への指導を行い、必要に応じて健康診断を実施しています。また、時間外管理対象者以外で、本人が申し出を行った場合、もしくは上司が面談を必要と認めた場合には、疲労蓄積度自己診断チェックリストによる調査を行い、その評価をもとに産業医による本人健康面談を実施しています。

社内コミュニケーション

会社からの情報を随時すべての社員に向けて発信するとともに、経営者と社員とがコミュニケーションをとれる機会の創出に努め、企業理念「INAX5」をベースとした企業風土づくりに取り組んでいます。

経営者と社員のコミュニケーション

2007年度から、イントラネットで開始した経営者と社員のコミュニケーションを図る「KAWAMOTO BLOG（かわもとブログ）」は、2009年3月末で累計74回を数え、閲覧数も2008年度平均7,950件／月と経営トップの考えや活動を伝えるツールとして定着してきました。経営への考え方のほか、社長の川本自らが撮影した写真を掲載するなど、経営層と社員との距離を縮めています。海外を含め、ショールームのオープンや移転の際には、営業所社員との直接対話を積極的に行い、その模様もブログのなかで写真とともに紹介しています。

社内およびその家族とのコミュニケーション

◆表彰制度

第10次中期経営計画の経営コンセプト「質の追究」に則り、仕事の質向上に向けた革新的な取り組みが特に優秀だった部門・チーム・個人を表彰する「INAX QUALITY AWARD」を新設し、2007年度表彰式を7月11日に開催しました。各賞はいくつもの「優れた質の仕事」を実行した候補のなかから、各部門ごとにひとつだけ選ばれ、社内に広く紹介され、全社でその名誉をたたえる機会となっています。そのほか、各本部やエリアごとにお客さま満足を追究した活動を表彰する「CS大会」も開催し、エリア内での情報交換の場として活用しています。

◆コミュニケーションツール

社内報「あいえすh」を1963年に創刊し、毎月1回発行しています。2008年の年間を通して表紙を飾ったのは海外の街や風物の写真です。「世界に広がるINAX」をテーマに、海外事業所を取り上げ、アジアやヨーロッパ、オーストラリア、アメリカと世界で活躍する社員とその活動にスポットをあて、今後の活躍への理解と浸透を促しました。また、毎月のNEWS記事では、事業活動のほか事業所でのレクリエーション活動を紹介するなど、各部署・職場をアピールする機会を設けています。

◆社員満足度の向上

継続して社員の就業意識、満足度調査を行っており、2008年度も12月下旬から1月下旬にかけてアンケート調査を実施しました(5,000名、回収率85.1%)。2006年度の結果との比較をはじめ、男女別や職種別で意識の違いを確認しました。現在の仕事と私生活とのバランスについて、満足しているかを聞いた設問では、2006年度に比べ、16.3%高い、65.7%の社員が「そう思う、ややそう思う」と回答、また、女性を活用する雰囲気があるかどうかについても、15.2%上昇し、80.2%の社員が肯定的に答えています。しかし、キャリアビジョンがあるかどうかの設問では、「明確なビジョンを持っている」と答えた女性はわずか2.3%で「漠然とだが持っている」をあわせても35.4%と3分の2以上の女性が将来のキャリアを描きにくい現状が浮かび上がっています。ロールモデルの育成など引き続き課題に取り組んでいきます。

労働組合活動

2009年度第63年次(2008年8月1日～2009年7月31日)スローガン「自主的な行動で私たちの生活の質を高めよう」

第63年次は「ボトムアップ」の力をより高め、組合員一人ひとりが自主的に考え、行動できる風土を醸成できるように、労働組合役員も率先して行動し、風通しの良い職場づくりを目指しています。そのためにも労働組合が頼りになる存在となるよう体制強化に取り組み、中期的な視野で見直しを進めています。今年次は、「組合員意識調査」を実施しました。このような組合員の声をキッチリ聴き、組合員へキッチリ伝え、組合員の満足度の向上につながる施策を実行していきます。

2009年度(第63年次)の活動内容

◆「自主的な行動」への促進活動

今年次の活動スローガン「自主的な行動で私たちの生活の質を高めよう」のサポートツールとして、「とうこうLive(ライブ) i 」の発刊を開始しました。目的は、組合員の活動紹介や、さまざまな情報提供を通じて、自主的な行動、活動をサポートしたいというものです。また、いくつかの拠点でモデルサークルを選定し、コミュニケーションの活性化や風土改革、さらには改善活動を実現するための施策、運用を行っています。これらの活動は、働く組合員が主役です。まだまだ道半ばですが、元気で、明るい、変化のある職場づくりに取り組んでいきます。

◆ワーク・ライフ・バランスの実現

ワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、啓蒙活動・各種制度の策定・改定などに取り組んでいます。今年次は、次世代育成支援委員会への参画、ワーク・バランス・セミナー(株式会社東レ経営研修所／佐々木代表取締役社長:「仕事のタイムマネージメントはプロの基本」) j に加え、営業部門・製造部門において家族の職場訪問企画を、2009年5月から順次実施する予定です。また、ワーク・ライフ・バランスの重要な課題である就業時間管理の徹底、時間外労働の削減活動も継続的に注力しており、2008年5～6月に開催した労使共催のノー残業DAYイベント「全社ボーリング大会 k 」には、2,886名もの社員が参加しました。

◆労使団体交渉 (生きがい・働きがいの向上のための生活交渉)

昨年次より、春季交渉を従来の「経済交渉」にとどまらず、生活・職場の環境改善にも目を向けた「生活交渉」と位置づけ、働く組合員の生きがい・働きがいの向上を目的とした、新しいスタイルの交渉に変更しました。2008年春季生活交渉では、新リフレッシュ休暇制度(30歳、40歳、50歳)の導入と、部門別有給休暇促進日の設置を要求し、会社が受け入れ、制度化されました。

◆そのほかの取り組み

安全衛生活動・メンタルヘルス活動による組合員の安心・安全の保障、海外を含むすべての組合員へのサービス提供の強化、福利厚生活動による生活水準の維持・向上などの活動を行っています。さらに、今年次は、社会支援活動の一環としてボランティア活動の強化、環境活動へも着手しました。また、労働組合の「質の向上」、「価値の向上」を目指し、他企業・異業種労働組合からの情報収集、組合役員のスキルアップ活動にも注力しています。

i

j

k

Column

営業部門からの委員長選出について

これまで INAX の労働組合委員長は、工場や開発・本社部門など製造現場や本社に近く、モノをつくる部門の実態を知る部署からの選出が続いてきました。今年度、初めて販売を担う営業部門から委員長が誕生、日本全国に散らばる営業部門の声を反映させる意味合いも大きくなってきました。

会社として社会環境、業態の変化に伴い、売上げ拡大を図るため、営業人員、拠点を積極的に増やしてきた結果として組合員のニーズも変化し、働き方も多様化しています。労働組合としても、柔軟に対応し、従来の形から変化させていく必要性を感じており、今回の委員長の選出は、まずその第一歩と考えます。営業部門のニーズにこれまで以上に向きあっていくことはもちろんですが、営業部門の組合活動への関与を深め、これまで弱かった部分や不足している部分を強化し、より良い組合活動を考え、実行していく必要があります。一人でも多くの組合員が、気持ち良く仕事ができ、INAX の総合力を高めていくために、製造、開発、スタッフ、営業各部門のバランスのとれた労働組合体制の構築を目指します。

環境活動の報告

環境方針／環境マネジメントシステム推進体制／第10次中期経営計画 環境宣言／第10次環境宣言の目標と実績／
2008年度のおもな活動成果／環境評価運用ルールとINAX環境会計／INAXグループの事業活動における環境負荷

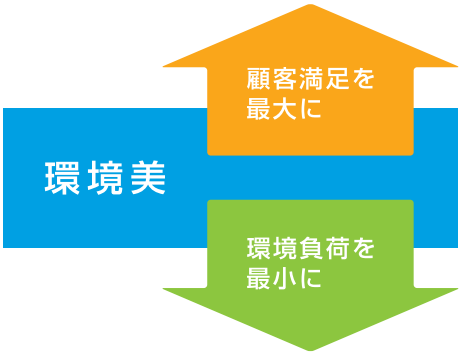
環境方針

環境方針

◆環境基本理念

INAXグループは、低炭素社会、循環型社会ならびに自然共生社会の構築が人類にとって最も重要な課題であることを認識し、「人と地球を考えた環境美の創造と提供」を企業活動に関わるあらゆる場面で追求することにより、真の企業市民（コーポレートシチズン）を目指します。

（1997年5月21日制定　2008年4月1日改定）



◆行動指針

すべての事業活動は地球の恵みに拠ることを理解し、事業活動による地球温暖化や自然生態系への影響を抑えつつ、快適でサステナブル（持続可能）な暮らしを提供し、未来へ引き継ぐことを行動の基本とします。

1. CO_2を出さない独自のシステムづくりを進め、すべての事業活動においてCO_2排出量削減に取り組みます。

2. これまで培ってきた環境技術を応用し、極限まで少ないエネルギー・資源を使った環境負荷の少ないスリムなモノづくりを行います。

3. エコ商品・サービスをお届けし、お客さまの使用場面でのCO_2排出量削減に貢献します。使用済み商品の回収・リサイクルを通じて埋立て廃棄物の削減、再生資源の回収に取り組みます。

4. グループ統合のマネジメントシステムを活用して、全社の環境課題への取り組み強化とコンプライアンスの徹底を行います。

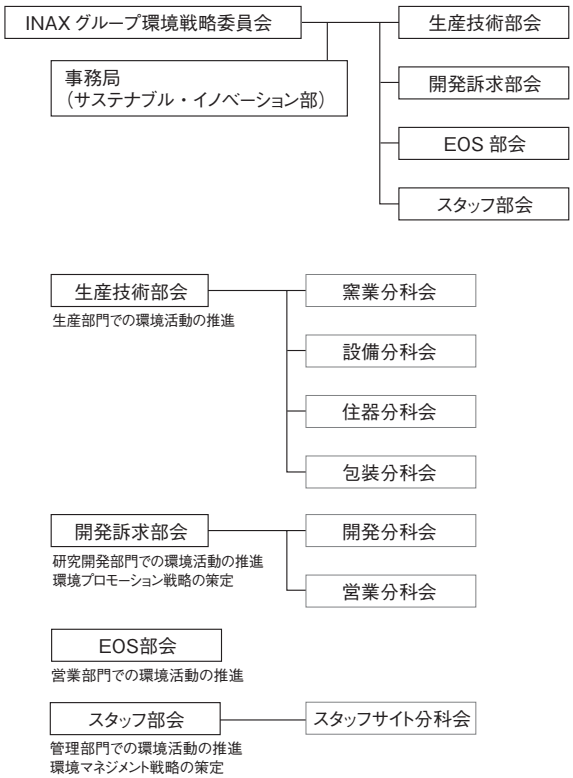
5. 事業活動と生態系の関わりを意識した情報の発信・教育の推進・技術の提供を行うことにより、生態系の保全や回復に取り組みます。

（1997年5月21日制定　2008年4月1日改定）

環境マネジメントシステム推進体制

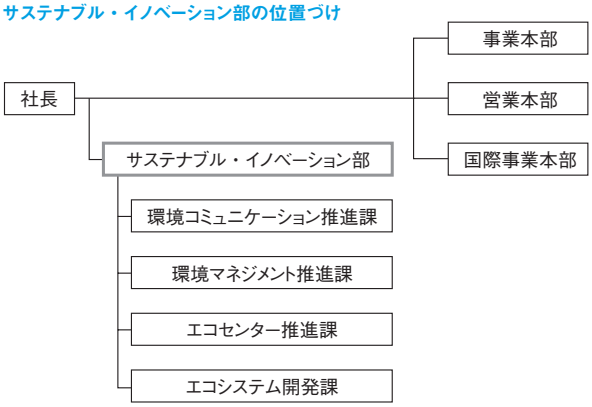
INAXグループ環境戦略委員会は、社長を委員長とし、その下に4つの部会を構成し、「環境方針・行動指針の全社事業活動への落とし込み」と「INAXグループの統一的な環境マネジメントの展開と推進、進捗管理」に取り組みます。

「INAX グループ環境戦略委員会」 組織図



サステナブル・イノベーション部は、社長直轄の全社スタッフとしての機能とともに、INAXグループ環境戦略委員会の事務局としての機能を発揮し、事業・営業・管理部門の部会・分科会活動を統括することで、本格的な環境経営を実践していきます。「第10次中期経営計画 環境宣言」において、INAXはサステナブルな社会の実現に向けた企業経営を本格的に進め、「2050年のCO_2総排出量を1990年度比80%削減する」ことを社会に約束しました。そのためにイノベーションを引き起こし、実現のためのロードマップを2010年までに完成させます。

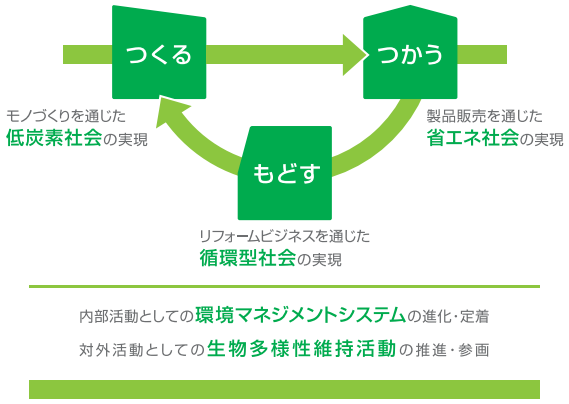
サステナブル・イノベーション部の位置づけ



第10次中期経営計画 環境宣言

「第10次中期経営計画 環境宣言」2008年～2010年
INAXは、サステナブル（持続可能）な社会の実現に向けた企業経営を本格的に進め、2050年のCO_2排出量を（1990年度比）80%削減します。そのためにイノベーション（革新）を引き起こし、2010年時点では19.1%削減を達成します。

サステナブルな社会の実現に向け、イノベーションを引き起こすために、
「つくる」「つかう」「もどす」という枠組みで、
「低炭素社会」「省エネ社会」「循環型社会」を構築していきます。



◆「第10次中期経営計画 環境宣言」に基づいた環境活動

1.モノづくりを通じて「低炭素社会」を構築します

国内および海外の連結子会社を含むINAXグループのCO_2総排出量を、1990年度比で2010年までに19.1%削減します。さらに、2020年に30%削減、2050年には80%まで削減することを目指しています。
そのために、窯業技術のイノベーションを実現し、窯業用焼成炉から排出されるCO_2を大幅に削減します。また、2010年からは風力発電機の運転も開始します。

2.製品販売を通じて「省エネ社会」を構築します

製品の省エネを促進し、製品使用時のCO_2排出削減量をこれまでよりも拡大して表示し、2009年には市場におけるCO_2排出削減値を公表します。さらに、商品開発においては、冷暖房エネルギーを削減する建材商品や、給湯エネルギーを削減する住宅設備商品の開発を進め、2010年までに、民生部門のCO_2排出量を大幅に削減する商品を発売します。

3.リフォームビジネスを通じて「循環型社会」を構築します

INAXでは、製造者責任のひとつとして、新築・リフォーム工事などで発生した使用済み廃材を集めてリサイクルする、エコセンター事業（廃材リサイクル事業）を展開しています。2008年に愛知県でビジネスモデルを完成。さらに、三重県や茨城県でエコセンター事業を開始する予定です。また、広域認定制度を活用し、新築・リフォーム時における適正処理と再資源化を促進するサービスをさらに向上させます。

4.環境マネジメントシステムを進化させます

環境マネジメントシステムを軸にして各種マネジメントシステムをスリム化するため、モノづくり軸から環境・安全・品質のマネジメントシステム統合を進めます。
また、環境についてのコンプライアンスを徹底し、法違反ゼロを継続します。

5. 生物多様性維持のための活動を推進します

生物多様性維持の取り組み方針や活動目標を明確にし、里山・森林などのフィールド活動を全国3カ所以上実施します。国内外での環境教育も継続的に開催します。

◆「エコ・ファースト」の約束

「第10次中期経営計画 環境宣言」に基づいた具体的目標について、住宅および建築で使われる設備機器や建材などの製造と販売を行う企業としての社会的責任をまっとうし、サステナブル（持続可能）な社会の実現に向けて活動していくことと、その結果を今後環境省に報告していくことを約束し、住宅設備・建材業界で初の「エコ・ファースト※」企業として環境大臣より認定されました。今後はこの約束を果たすため、より一層、INAX グループ全体で環境活動に取り組んでいきます。

※エコ・ファースト：業界トップランナーの環境保全に関する行動をさらに促進していくため、企業が環境大臣に対し、自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度

第10次環境宣言（2008年～2010年）の目標と実績 2008年度（2008年4月～2009年3月）の結果報告

環境宣言に基づいた取り組み項目	2008年度の目標	目標に対する進展度（◎○△×）	
1.モノづくりを通じて「低炭素社会」を構築します			
①窯業技術のイノベーションを実現し、焼成炉のCO_2削減を進めます	イノベーション技術の実現性評価と課題抽出が完了	○	
②風力発電機を設置し、自家発電によるCO_2削減を進めます	風況調査を終え、補助金申請が完了	△	
③省エネ診断を行い、設備改善によるCO_2削減を進めます	主要設備の診断と改善が完了	○	
④失敗コストの低減により、CO_2削減を進めます	削減方法の現場浸透が完了	△	
⑤製品の軽量化やコンパクト化により、輸送時のCO_2削減を進めます	輸送時のCO_2削減2007年度比1%以上（原単位）	◎	
⑥2010年のCO_2総排出量を（1990年度比）19.1% 削減します	CO_2総排出量を1990年度比21.0% 削減	◎	
2.製品販売を通じて「省エネ社会」を構築します			
①冷暖房エネルギーを削減する建材商品を提供します	試作開発が完了	○	
②給湯エネルギーを削減する住宅設備商品を提供します	試作開発が完了	△	
③水資源を削減するサニテーションシステムを提供します	イノベーション技術の実現性評価が完了	○	
④省エネ商品を拡充し、製品使用時のCO_2排出量を削減します	製品CO_2排出量の表示開始	◎	
3.リフォームビジネスを通じて「循環型社会」を構築します			
①リフォーム廃材の適正処理と再資源化を向上するサービスを提供します	愛知県でのビジネスモデルが完成	○	
4.環境マネジメントシステムを進化させます			
①環境マネジメントシステムを軸にして各種マネジメントシステムを統合します	各種システムの検証が完了	○	
②環境についてのコンプライアンスを徹底します	教育の継続と法違反ゼロ	◎	
③国内および海外での環境教育を継続的に実施します	国内: 全国ワークショップ開催年間5件以上 海外: ベトナムでの環境授業年間4校100人以上	◎	
5.生物多様性維持のための活動を推進します			
①生態系の保全と回復のための活動を継続的に実施します	生物多様性維持の活動方針・目標の見える化	○	

	2008年度の実績（具体的な内容）	今後の課題	第10次最終年度の目標
	各種技術を評価し、蓄熱型焼成炉と電磁誘導型加熱炉に焦点化。蓄熱型は窯業焼成に適した設備設計が課題、電磁誘導型は窯業材料の汎用化が課題	蓄熱型の設備設計と、電磁誘導型の調合研究	パイロットプラントを導入開始
	風況調査を完了、鳥類・騒音などの環境影響評価を開始。補助金申請は環境影響調査を慎重に進めるため延期	環境影響調査を完了し、近隣同意を得て補助金申請	2百万kWh/年を自家発電 （INAXの電気使用量の約1%相当）
	焼成炉とボイラーを中心に診断し、エネルギー転換や蒸気使用量の見える化を実施	省エネの相互診断を実施し、好適事例を横展開	生産設備のCO_2削減2007年度比 10%以上
	品質改善と CO_2 削減の目的目標を共通化して取り組む全社方針を策定	統合マネジメントシステムと連動して目標を設定	成形組立時のCO_2削減2007年度比 20%以上
	2007 年度比 7.3%削減 生産部門の最適再配置、トラックの積載率向上、エコドライブ活動における燃費 3.8%向上などが寄与 製品の軽量化やコンパクト化への取り組みも継続中	製品の軽量化、コンパクト化の取り組みを継続	輸送時のCO_2削減2007年度比 3%以上（原単位）
	1990 年度比 27.9%削減。生産高減少による総排出量減少も寄与	原単位（CO_2総排出量÷生産数量）の目標管理を強化	CO_2総排出量を1990年度比 19.1%削減
	都市環境対策セラミックスの試作開発および基本性能評価が完了	公的機関による実証試験	エコエポック建材商品1アイテム以上
	超節湯バスの試作開発および基本性能評価に着手	試作開発の完了と、実機による稼動試験	エコエポック住宅設備商品1アイテム以上
	超節水便器の試作開発および基本性能評価が完了	実機による稼動試験と、公的機関による実証試験	サニテーションシステム商品化を発表
	環境プロモーション「暮らし、マイナスCO_2」として、製品使用時の CO_2 排出削減量を表示開始	「暮らし、マイナスCO_2」対象商品の拡大	エコ推奨商品の売上比率90%以上
	愛知県下の特約店、水道工事店と共同して、廃シャワートイレのリサイクル開始	茨城県、三重県でエコセンター事業の準備	茨城県でエコセンター事業を開始
	統合マネジメントシステム構築を決定し、基本計画を策定。環境、安全、品質のマネジメントを統合する実証に着手	本社管理部門と工場現場体制それぞれのシステム統合を推進	独自のマネジメントシステムの構築完了
	公害と廃棄物の標準作業書改訂、工場や営業所の実務担当者へ教育実施。法違反ゼロ継続	標準作業書の逐次改訂、海外拠点へ展開	教育の継続と法違反ゼロ
	国内ワークショップ 6 件開催。岐阜県・岐阜教育委員会と三者で協同事業協定を締結 ベトナム環境授業は8校約700人に実施	国内は地方自治体と連携して推進 ベトナムは現地工場見学に招聘	国内: 全国ワークショップ開催年間 15 件以上 海外: 現地法人中心の新規環境教育 がスタート
	「企業と生物多様性イニシアティブ（JBIB）」の設立に参画。社員ボランティアによる森林保全活動を愛知・三重で開始し、計 5 回延べ 360 人が参加	具体的活動計画を作成公表、森林保全活動を茨城でも開始	COP10で活動成果を発表

2008年度のおもな活動成果

モノづくりを通じて「低炭素社会」を構築します

◆「自主参加型国内排出量取引制度」にグループ参加

環境省主催の「自主参加型国内排出量取引制度（JVETS）」に、4年連続で参加しています。2008年度は子会社を含めたINAXグループ7工場で参加し、LPGからLNGへの燃料転換などでCO_2を9,785t削減する予定です。

2007年度に参加した九州INAX鹿島工場は、グループ内工場再編による増産の影響で、削減目標1,005tに対し971t削減の見込みとなりました。目標未達分は過去の余剰削減分で補填する予定です。

また、排出量取引の国内統合市場の試行的実施が始まり、「排出量取引試行協議会」も発足しました。INAXはJVETSへの参加経験をいかしてこれに参画していきます。

◆営業車にハイブリッドカー導入

全国の支社・営業所で使用している営業用車両を、環境配慮型のハイブリッドカーに順次切り替えていきます。これまでも、営業車両の運転に際してはエコドライブを推進してきましたが、運転技術によるCO_2排出量削減に加えて、さらにCO_2削減を加速するものです。

全524台の営業車両のうちハイブリッドカーは8台で、今後はリース更新時にハイブリッドカーへの切り替えを実施していきます。切り替え終了時には、年間30万リットルのガソリン使用量削減につながり、CO_2換算では、年間690tの削減効果を見込んでいます。営業車両全体では、16.4%のCO_2削減になります。

製品販売を通じて「省エネ社会」を構築します

◆「暮らし、マイナスCO_2」スタート

2009年春、INAXは「暮らし、マイナスCO_2」というキャッチフレーズのもと、INAX製品を1年間使用した場合のCO_2削減量の目安を表示する活動を開始しました。節電や節水などの環境負荷低減機能によってCO_2が削減できる製品について、その削減量をわかりやすいマークで示しています。1990年頃に一般的だった製品と最新のINAX製品のCO_2排出量を比較し、公的基準に記された標準的な使い方に基づいて算出しています。カタログやショールーム、ホームページで表示していくほか、活動スタートに先駆けて2008年12月には、「エコプロダクツ2008」で一般公開もしました。

◆住生活グループが「エコプロダクツ2008」に出展

住生活グループ傘下のINAX、トステム、東洋エクステリア、トステムビバの4社は、2008年12月11日～13日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2008」に共同出展しました。

今回の出展テーマを「暮らし、マイナスCO_2」とし、暮らし方や設備選びの視点を見直すだけで、どれだけのCO_2が削減できるかを数字で表示。実際に住生活グループが提供できる「暮らし、マイナスCO_2」を住宅一棟分で提案しました。

◆「カートリッジ式小便器」発売

INAXは、パブリックトイレ向けの超節水商品として、洗浄水をまったく使用しない「カートリッジ式小便器（無水小便器）」を、2008年8月に発売しました。一台あたりの利用頻度が大きいパブリックトイレ市場において、大幅な節水を実現し、CO_2削減にも貢献できる商品です。また、汚れが溜まりにくいクリーンリム形状にし、凹凸のないデザインにすることで、掃除のしやすさも実現しました。

リフォームビジネスを通じて「循環型社会」を構築します

◆「INAXエコセンター」

「INAXエコセンター」は、住宅のリフォーム工事に伴うさまざまな廃材を、集めてリサイクルする産業廃棄物処理業の施設です。2008年5月、この活動が愛知県が推進する「あいちエコタウンプラン」の事業として承認されました。住宅リフォームの廃材リサイクル分野では、初めてのエコタウン事業※となります。

住宅リフォームで発生する、ガラス・陶器くず、廃プラスチック類などは処理困難物として埋立て処分されるのが一般的でした。「INAXエコセンター」では、住宅設備機器メーカーとしてのノウハウをいかし、職人による分解・分別を徹底して行うことで、再資源化を促進しています。また、リフォーム業者や施工業者などのビジネスユーザーに対しては、マニフェスト管理支援といったコンサルティングも行っています。

※ エコタウン事業：経済産業省と環境省が連携して進める制度。「ゼロ・エミッション構想」を地域の環境調和型経済社会形成のための基本構想として位置づけ、あわせて地域振興の機軸として推進することにより、先進的な環境調和型のまちづくり推進を目的とする事業

環境マネジメントシステムを進化させます

◆ゼロエミオフィス認定制度

オフィスでの資源循環の加速を目的に、全国87拠点の営業部門、研究開発・管理部門を対象に、独自の「ゼロエミオフィス認定制度」を設けました。これは、廃棄物業者の指定まで可能な国内オフィスを対象にしたもので、産業廃棄物や一般廃棄物の排出総量のうち、99%以上を再資源化している静岡・横浜・西東京支社など営業6拠点と、本社ビルおよび協力工場センターの2拠点の計8拠点が「ゼロエミオフィス」として社内認定しました。

認定されたオフィスの優れた事例や施策は、ほかの支社・営業所・研究開発部門のオフィスに水平展開し、「ゼロエミオフィス」の拡大を図っています。

生物多様性維持のための活動を推進します

◆森林保全活動「森でeこと」拡大

INAXは2008年5月、森林保全活動「森でeこと」をスタートさせました。愛知県にある「海上の森」のうち、里山サテライト南西部「企業連携の森」の一部について共同で整備を行うものです。この活動は、「あいち海上の森センター」が推進する「海上の森保全プロジェクト」の一環で、4月に愛知県と覚書を締結し、5月24日に第1回目の活動を実施しました。11月の第2回目には、知多地区・本社の社員や中部統括支社の営業マンとその家族38名がボランティアに参加。間伐作業に汗を流したほか、昼休みを利用した森の自然観察会も子どもたちに大変好評でした。

2008年6月には、三重県が進めている「企業の森づくり」への参加を表明し、三重県および伊賀市とINAXの間で、森林保全協定を締結・調印しました。伊賀市上阿波地区にて、植林や伐採・枝打ちを、社員および社員家族のボランティア参加で実施していきます。これまでに全3回（2008年6月、11月、2009年3月）実施し、延べ280名が参加。今後も、活動の幅を広げ、参加者を増やし「森でeこと」を根づかせていきます。

森でeこと INAX

◆ベトナムにおける環境教育活動

INAXでは、子どもたちのための国際協力団体「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」と「ブリッジ エーシア ジャパン」の協力のもと、2007年4月からベトナムにて、子どもを対象とした環境教育を展開しています。これまではイエンバイとフエを中心に活動してきましたが、2008年12月は、ホーチミンとクイニョンへも活動範囲を拡大。それぞれ水の環境についての環境授業を行いました。継続的に活動を展開しているイエンバイやフエでは、子どもが大人に浄化槽の取り付けを提案するなど、INAXの環境授業が少しずつ子どもたちの意識や行動を変えていくことを実感することができました。

環境評価運用ルールとINAX 環境会計

2005年7月からINAXグループ全体で運用を開始した「環境評価運用ルール」では、1,000万円以上の投資案件に対し「環境影響の把握と対策の検証」、「順法、リスクに対する意識強化をチェックする」としています。2008年度の対象案件は80案件でした。生産設備の燃料転換、窯の集約化などでCO_2排出量を削減、また、18ショールーム改装で照明・エアコンの省エネ機種選定や建材のVOC対策などの効果を上げました。

また、2000年に導入した「INAX環境会計（INAX単独）」は、環境費用が16億4,900万円で前年度より2億9,400万円増、内訳は、環境投資2億1,500万円増、維持費用8,700万円増、環境損失800万円減です。環境投資は、伊賀上野工場の燃料転換、常滑東工場の排ガス処理システム導入などにより大幅に増加しました。効果金額は2億2,300万円で、廃棄物リサイクル費用削減額や有価物売却額の減少で前年度より3億3,600万円減でした。

・「環境会計／環境費用と効果」ホームページ
http://inax.co.jp/eco/report/input_output/account.html

Column

「INAXエコセンター」を活用して

LIFA 東海（株式会社 中村土木建設）
中山保徳さん

「LIFA 東海」では、中村土木建設会社の 1 事業として 2000 年からリフォームを手がけており、現在は、シャワートイレや水栓金具の交換といった小さな工事も含め年間 120 件～ 140 件ほどの実績があります。

2005 年に、中村土木として ISO14001 を取得しました。以前は、駐車場にコンテナを置いて廃材を仮置きしていましたが、分別が徹底できず、外部監査で指摘を受けました。私が責任者として管理することになった頃、ちょうど INAX さんから話を聞いて、2007 年の夏から「INAX エコセンター」を利用しています。ISO の監査も問題なくなりましたね。今は、1㎥のフタつき廃材コンテナいっぱいになると集めてもらっていますが、2㎥のものや 2 トントラックを導入するなど、もう少しフレキシブルに対応していただけるとさらに助かります。

処理費用が発生するので、お客さまに見積もり時に説明しますが、みなさん廃棄物処理問題についてはご存知で理解してくださいます。もちろん部品の取り替え程度の場合は、ご自分で行政の廃材センターを利用する方もいますが、工事を伴うような場合は、みなさんお任せくださいますね。安心してリフォームできる一助になっているのではないでしょうか。「INAX エコセンター」に任せられて、当社としてもありがたいです。

INAXグループの事業活動における環境負荷

INPUT

●原材料・副資材投入量

			INAX 生産拠点	INAX 研究開発・管理拠点	INAX 営業拠点	海外拠点
仕入れ先で使用している原料	仕入商品・部材	天然窯業原料	107,825 t			
		再生窯業原料	63,271 t			
		銅・銅合金	6,984 t			
		鉄・鉄鋼板	15,886 t			
		ステンレス・ステンレス鋼板	2,347 t			
		熱硬化性樹脂	1,335 t			
		熱可塑性樹脂	7,793 t			
		合成ゴム	599 t			
		充填材・ガラス繊維	762 t			
		合板・パーティクルボード	13,330 t			
		電気・電子部品	824 t			
		そのほか※1	15,888 t			
自社で使用している原材料	窯業原料	天然窯業原料	107,139 t			91,824 t
		再生窯業原料	31,161 t			9,863 t
	金属原料	銅	5,827 t			726 t
		鉄鋼板	39,889 t			—
	木ボード類	合板・パーティクルボード	567 t			—
		石膏板	10,302 t			—
	化成品原料	熱可塑性樹脂	7,789 t			—
		熱硬化性樹脂	4,962 t			12 t
		充填材・ガラス繊維	14,262 t			34 t
	そのほか※1		6,949 t			6 t
副資材	パレット購入量		58,677 枚			—
	段ボール		10,321 t			—
	印刷物（紙）		2,302 t			—

●エネルギー・水などの使用・投入量

		INAX 生産拠点	INAX 研究開発・管理拠点	INAX 営業拠点	海外拠点
エネルギー使用量	電気	139,465 千kWh	19,290 千kWh	12,464 千kWh	46,466 千kWh
	LPG	14,125 t	35 t	91 t	6,493 t
	LNG	13,998 千㎥	124 千㎥	255 千㎥	7,681 千㎥
	灯油	3,060 kℓ	42 kℓ	9 kℓ	2,552 kℓ
	重油	6,206 kℓ	0 kℓ	0 kℓ	0 kℓ
	ガソリン	243 kℓ	681 kℓ	1,448 kℓ	188 kℓ
	軽油	48 kℓ	47 kℓ	6 kℓ	553 kℓ
取水量		639 千㎥	48 千㎥	77 千㎥	699 千㎥
コピー用紙購入量		12,147 千枚	8,740 千枚	45,809 千枚	1,552 千枚
PRTR法対象化学物質取扱量※2		4,408 t	0 t	0 t	—

INAX

INAX 生産拠点	INAX 研究開発・管理拠点	INAX 営業拠点	海外拠点

OUTPUT

●大気・水・廃棄物などの排出・リサイクル量※3

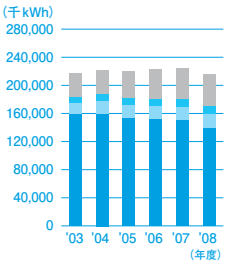
		INAX 生産拠点	INAX 研究開発・管理拠点	INAX 営業拠点	海外拠点
大気	CO_2排出量	133,278 t-CO_2	8,382 t-CO_2	8,349 t-CO_2	58,884 t-CO_2
	SOx濃度	7.5 ppm			
	NOx濃度	33.6 ppm			
水	排水量	484 千㎥	87 千㎥	39 千㎥	412 千㎥
	BOD	5.9 mg/ℓ			
	COD	8.4 mg/ℓ			
	SS	3.6 mg/ℓ			
水循環使用量		320 千㎥			64 千㎥
PRTR法対象化学物質排出移動量※2		165 t			
埋立処分	一般廃棄物	33 t	31 t	114 t	90 t
	産業廃棄物	140 t	116 t	325 t	3,023 t
リサイクル	一般廃棄物	276 t	71 t	399 t	0 t
	産業廃棄物	21,119 t	3,722 t	961 t	4,997 t
	汚泥	5,438 t			1,455 t
	陶磁器くず	10,568 t			2,652 t
	廃プラ	2,965 t			5 t
	そのほか	2,148 t			885 t

※1:そのほか＝無機材料・金属・化成品などを指す　※2:PRTR法対象化学物質取扱量は国内のみ　※3:SOx、NOx、BOD、COD、SSは平均値

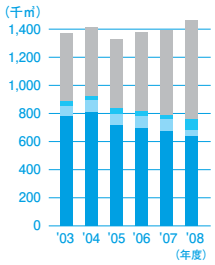
	107,825 t
	63,271 t
	6,984 t
	15,886 t
	2,347 t
	1,335 t
	7,793 t
	599 t
	762 t
	13,330 t
	824 t
	15,888 t
	198,963 t
	41,024 t
	6,552 t
	39,889 t
	567 t
	10,302 t
	7,789 t
	4,974 t
	14,296 t
	6,955 t
	58,677枚
	10,321 t
	2,302 t
	217,685 千kWh
	20,744 t
	22,058 千㎥
	5,663 kℓ
	6,206 kℓ
	2,560 kℓ
	654 kℓ
	1,463 千㎥
	68,248 千枚
	4,408 t

INPUT

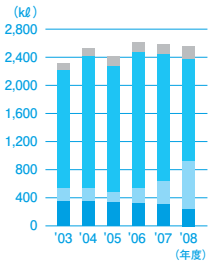
電気の使用量



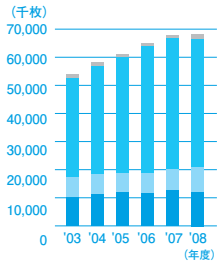
水の使用量



ガソリンの使用量

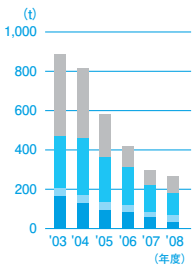


コピー用紙の購入量

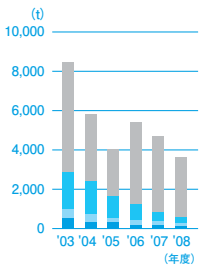


OUTPUT

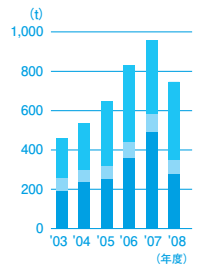
一般廃棄物の埋立量



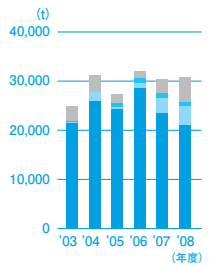
産業廃棄物の埋立量



一般廃棄物のリサイクル量

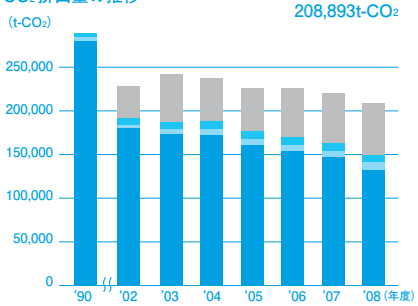


産業廃棄物のリサイクル量



CO_2排出量の推移

2008年度排出量
208,893t-CO_2



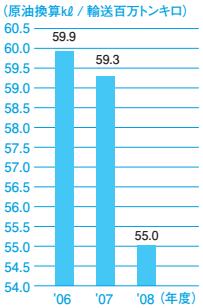
※1990年度をベンチマークとする

	▽
	208,893 t-CO_2
	7.1 ppm
	34.8 ppm
	1,022 千㎥
	5.9 mg/ℓ
	8.6 mg/ℓ
	3.6 mg/ℓ
	384 千㎥
	165 t
	268 t
	3,604 t
	746 t
	30,799 t
	6,893 t
	13,220 t
	2,970 t
	3,033 t

合計

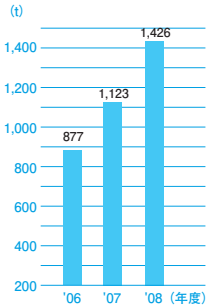
輸送時

輸配送における
エネルギー消費
原単位の推移



工事時

広域認定制度を活用した
タイルおよび
住宅設備機器の
端材・残材の回収量



INAXグループの対象範囲

(2009年3月31日現在)

132拠点

(国内121拠点+海外11拠点)

	国内	海外
生産拠点	23	10
研究開発・管理拠点	19	0
営業拠点	95	1

※内訳は延べ拠点数
(同じ拠点に複数の部門が所在している場合がある)
※海外子会社の営業所は生産部門の海外拠点に含める

『INAX Corporate Report 2008』へのご意見と対応

みなさまからのご意見とINAXの対応／『INAX Corporate Report 2008』アンケート結果

みなさまからのご意見と INAX の対応

『INAX Corporate Report』は、INAXが社会の声を聞く場でもあります。さまざまな提言や示唆をいただきながら、INAXの姿勢や考えを示し、次の活動へとつなげていきます。ここでは、『INAX Corporate Report 2008』の「BRAND TOPICS」と「Special Issue」で意見交換した内容を踏まえて、INAXの現在の取り組みやその後の展開の一部を報告します。

BRAND TOPICS 01

ビジネスパートナーとともに、お客さまの真の満足を追究します

「LIFA中野」の西村剛敏さん、建築家の鈴木利美さんとともにお客さまに向かいあうビジネスパートナーとして意見交換しました。お二人からは、「LIFA店間の情報共有の場づくり」、「創造の場としてのショールームの改善」、「モノづくりの歴史や技術の情報の発信」を推進してほしいとのご意見をいただきました。INAXの商品やサービスは、ビジネスパートナーを通して、お客さまに届き、使用していただけます。INAXのビジネスについて理解いただくために、ここであらためて、INAXの営業組織について解説します。また、LIFA店での活動の一部を報告します。

各支社・営業所の営業組織

INAXの提供する商品やサービスをお客さまが使用するためには、必ず設計・施工が必要であり、お客さまが直接店頭で購入されるケースは、一部の商品を除いてほとんどありません。INAXの直接の営業先は、特約店と呼ばれる代理店・販売店、ハウスメーカーや工務店・施工店になります。これらの営業先は、INAXにとって大事な顧客であると同時に、最終使用者であるお客さまに向かって、ともにINAX商品を提案し提供するビジネスパートナーでもあります。INAXでは、営業先別に、効率よく全商品をバランスよく提案できる組織体制を整えています。

戸建住宅を中心とした住宅市場の場合、各支社や営業所では、3つの営業体制をとっています。1つ目は、決まった工務店やハウスメーカーなどを担当し、INAX商品をトータルに提案する「アカウントセールス課」（顧客担当営業）。2つ目は、販売店と協働して地域に密着した販売促進活動を行うとともに、販売店の販売力強化に向けた支援を行う「リージョンセールス課」（チャネル担当営業）。3つ目が、2008年4月に新設した組織で、ショールームを基軸に、最終使用者であるお客さまとの接点を強化し、提案活動を行う「コンフォートサービス課」（顧客提案営業）です。

一方、マンション市場やオフィスビル、都市開発など大型現場への営業活動は、大都市部を中心に「プロジェクト統括部」（専門性を持った商品別・市場別組織）が担います。デイベロッパー、設計事務所やゼネコンと呼ばれる総合建設業者への商品指定活動を行っています。また、全営業先で新設着工だけでなく、リフォーム市場（ストック需要）への取り組みに注力しています。

このほかに営業先そのものを開拓していく部門として、リフォーム店のフランチャイズ化を推進するLIFA開発課などがあります。

LIFA 店間の情報共有・情報交換

「多くの仲間と情報交換ができる」これは、グループならではの魅力であり、LIFA事業を高めていくうえでも重要な要素のひとつと考えています。具体的な活動として、近隣エリアごとに店長会**a**を定期開催し、そのなかでイベント報告、CS（お客さま満足）向上策などを討議することが定着してきました。LIFA店間の関係も強固になり、お互いにアドバイスしあうような関係もできてきています。また、地域によっては、建築家を招いて、自社のプランニング事例について意見交換をするような新しい試みも始めています。

次のステップとしては、各地の店長会で引き出された成功事例を全国規模で情報共有する仕組みを計画しています。また、経営視点から討議する場の必要性も感じており、検討を開始しています。

「歴史や技術の情報の発信」については、「INAX:GINZA」の6階に、「INAXライブミュージアム」の紹介展示を常設し、見学会を開催するなど、ビジネスパートナーにINAXの歴史に触れていただく機会を増やしています。また、「ショールームの改善」については、2009年3月、新宿ショールームの4階に「INAXデザインコレクション CL」専用のフロア「CL stage（CLステージ）」をオープン**b**、住宅全体のトータルコーディネートを提案する新しいショールームの形に挑戦しています。

a

b

BRAND TOPICS 02

2050年の二酸化炭素総排出量 80%削減を目指して

環境ジャーナリストの枝廣淳子さんに、「第10次中期経営計画 環境宣言」で掲げた内容を説明し、ご意見を伺いました。枝廣さんからは、「この大きな目標が世の中に十分伝わっていないのは残念。NGOとの協力・協調も不十分ですね」と指摘を受けました。

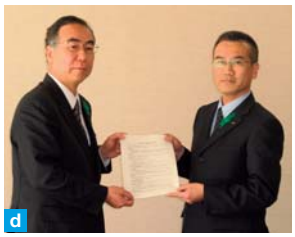
社内外への広報・宣伝活動と NGO との関係づくり

INAXの環境活動を広く周知させていくために、具体的な取り組みを随時ニュースリリースで発信し、新聞・雑誌などへの掲載を働きかけたり、お客さまの意識啓発を促す「エコハンドブック**c**」をショールームで配付するなど、地道な広報活動を継続しました。環境宣言の内容を紹介した小冊子も発行し、全社員に配付したほか、「エコ・ファーストの約束」を環境省と交わしたことを、営業場面でも伝えられるよう名刺シールも配付しました。

また、NGOとの協働については、ベトナムにおいて「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」と「ブリッジ エーシア ジャパン」とともに環境教育を継続的に展開しています。そのほか、愛知県や三重県 **d** と協定を締結し、森林保全活動「森でeこと」の活動を開始。岐阜県および岐阜県教育委員会とは「緑と水の子ども会議」の協定を結び、社員による出前授業をスタートさせます。社員のボランティア参加を促しながら、自治体や

教育機関など、さまざまなステークホルダーとの関係づくりを進めています。CO_2総排出量削減をはじめ、環境宣言の報告は、DATA25ページを参照ください。

c


d

BRAND TOPICS 03

高級品という枠を超え、環境と快適機能で支持を広げる韓国市場

このトピックスでは、韓国の輸入販売店や建設会社の方、実際にマンションの自宅にエコカラットを施工されたお客さまにお話を伺い、韓国市場でのエコカラットの評判などを報告しました。韓国でのその後の活動をお伝えします。そのほかの海外活動については、BRAND TOPICS 03（22ページ）およびDATA06ページをご参照ください。

現地法人「INAX KOREA Corporation」設立

2008年8月11日、ソウル市カンナム区に現地法人「INAX KOREA Corporation」を設立、同年11月7日に事務所をオープンしました。

設立目的は、調湿性能と高いデザイン性で韓国でもすでに人気の高い健康建材「エコカラット」やシャワートイレ一体型のタンクレストイレ「サティス」、また外装タイルを中心としたINAX商品のさらなる拡販の実現、およびデザイン・機能とも優れた商品を武器に、素敵な生活空間を提供し、韓国でINAXブランドを根づかせることです。

現在、現地事務所では、3名の韓国人社員 **e** が働いています。より緊密に現地販売パートナーの営業活動をサポートし、迅速でハイレベルな提案営業活動を展開しています。これまでも、担当者が市場調査を兼ねて韓国を訪れて、設計事務所や販売先でインテリアのデザイン傾向や志向を尋ねたり、韓国の代理店スタッフが来日し、開発スタッフやデザイナーと打ちあわせしたりするなど、ニーズの把握に努めてきました。それに加えて今回の「INAX KOREA Corporation」が設立されたことで、現地のトレンドや顧客ごとの要望をいっそうタイムリーに吸い上げ、いち早く商品開発へフィードバックすることが可能になります。

新設した事務所は、オフィス機能だけでなく、ショールーム機能も備えています **f**。壁の全面には、「エコカラット」や内外装タイルが施工され、来訪者は自身の目と手で、直接商品に触れられるようになっており、シャワートイレも実際に使って体験することができます。事務所開設以来、現地の販売パートナーや、建築・デザインに携わる方など、大勢のビジネスユーザーが足を運び、INAX商品を体験・体感しています。韓国でのコミュニケーションを深めながら、現地に受け入れられる商品の提供を目指し、INAXの認知度をさらに高めていきます。

e

f

BRAND TOPICS 04

思索への散策　INAXの文化活動が探し求めているもの

INAXの文化活動を知る写真家の中里和人さんと建築史家の深見奈緒子さんに、「INAX:GINZA」を中心としたギャラリー活動と、本社常滑地区で進めるミュージアム活動について意見交換しました。2つの活動を継続して推進していることや、伝統や歴史を尊重しつつ、新しいことに挑戦する姿勢を評価していただきました。2008年度の活動報告については、DATA16～18ページを参照ください。社外の声として、瓦師で写真家の山田脩二さん、長浜市長浜城歴史博物館館長の中島誠一さん、アーティストの母袋俊也さんに展覧会を行ってのコメントをいただきました。今後も各界の専門家と意見を交わし、社外の感性に触れながら、INAXらしい展覧会やイベントを開催していきます。

Special Issue

家族が家族を通して見た INAX

INAXにとって社員は最も重要なステークホルダーです。またINAXの企業風土や文化を広く社会に知っていただくためには、社員や家族の生の声を取り上げ、伝えていくことが必要であり、2008年版では、8名の社員家族が日頃の様子を語った内容を紹介しました。残業時間などの就業関連情報は、DATA19ページで継続報告しています。ここでは、社員親子参加イベントについて報告します。

社員の家族に INAX を知っていただくために

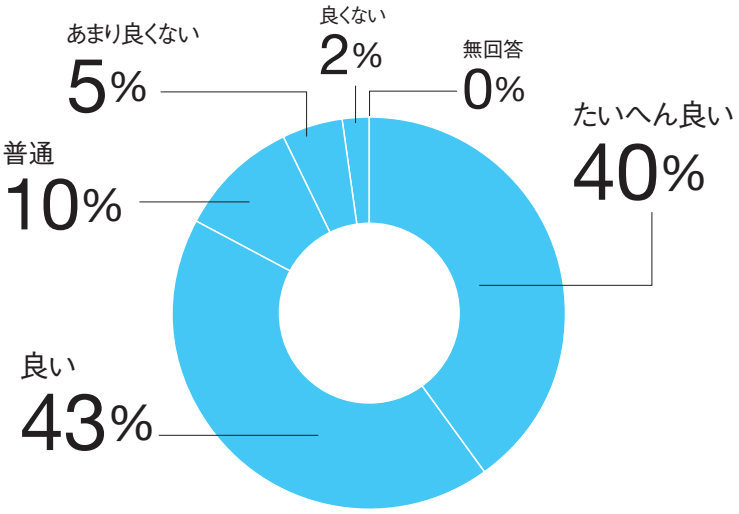
家族の目を通してあらためてINAXのモノづくりを学んでいただくために「INAXジュニアモノづくり探検隊」イベントを開催しました。第1回目の衛生陶器のコースでは、2009年3月に、ショールームで事前勉強会 **g** を、4月にトイレや洗面器などを生産している榎戸工場で、衛生陶器の製造工程について学習しました。参加した中学生は、工場見学のほか、実際に衛生陶器の原料を使って小さな便器の鋳込み体験 **h** を行い、成形方法への理解を深めました。

INAXでは、2007年度は社員親子対象の「水のツアー、土のツアー」（計20名参加）を開催、参加した家族からは「両親とINAXを見直した」「忙しいのはイヤだけど、仕事の大切さ、たいへんさもよくわかった」など親子間や会社の仕事への理解促進につながった感想が届いています。今回の「モノづくり探検隊」を通して、仕事内容や理念を知ることが、家族にとってもINAXにとっても良い作用をおよぼしていくと考えています。夏休みには、システムバスとタイルのコースを計画しています。

g

h

『INAX Corporate Report 2008』アンケート結果



回答者プロフィール

属性（複数回答あり）	
生活者	16名
企業（団体環境担当者）	7名
企業（団体職員）	3名
行政機関	1名
研究機関、教育機関	1名
報道機関	1名
金融機関、投資機関	1名
株主	3名
NPO・NGO	3名
環境専門家	2名
INAX事業所近隣の方	0名
取引先	3名
学生	2名
INAX社員または家族	0名
そのほか	6名
回答なし	1名

年代	
10代	2名
20代	3名
30代	2名
40代	4名
50代	12名
60代	7名
70代	5名
回答なし	7名

アンケート集計	**42件**
Fax	**14件**
Web	**2件**
Letter	**26件**

ホームページの「環境活動」サイトでもアンケートを実施していますが、そちらは含まれておりません

『INAX Corporate Report 2008』（2008年6月発行）にご意見をいただき、ありがとうございました。INAXの企業姿勢について賛同の声を多くいただきましたが、残念ながらアンケート回答数は毎年減少しており、昨年より33件少ない42件でした。自由記述の書き込みが多いことから、質問項目の見直しを図りました。みなさまの声を確認できる大事なツールですので、ぜひ、ご協力お願い申し上げます。

冊子綴じ込みアンケートのほかに、継続実施しているモニタリング調査では、他誌との比較も行いました。他誌の良い評価部分を参考にし、また、アンケートに寄せられた「商品情報（「エコカラット」の詳細）を知りたい」、「社員を登場させてほしい」、「地域活動を知りたい」などの声から、DATAページを充実させました。具体的には、「コーポレート・ガバナンス」、「環境活動」を除き、各項目とも1ページずつ誌面を増やし、小さなColumn（コラム）を設け、社員の言葉や補足情報を掲載しました。専門的になりがちなDATAページですが、読者のみなさんの関心も幅広くなっており、活動概要を把握いただけるようこころがけました。

2008年3月に「環境宣言」について新聞に掲載されたこともあり、初めて冊子を請求され、読まれた方からの回答もみられました。1990年比CO_2排出量80%削減目標については、冊子読者をはじめ、各方面から高く評価いただきました。引き続き関心の高い「環境」や「海外」、「働く場INAX」をテーマに挙げ、今回は「製品安全」についても特集しました。

ホームページでのアンケート入力などについては厳しいご指摘もいただきました。できるところからとなりますが、随時改善してまいります。

ここにアンケートでいただいたご意見の一部をご紹介します。

『INAX Corporate Report 2008』を読まれてのご意見・ご感想

今までは「くるりんポイ」というCMでしか知りませんでした。しかしこれを読んで、もっといろいろなことをして、社会に貢献している会社だと知りました。文化活動も広く行われていて、未来のためを考えている、という印象を受けました。（20代、女性、学生）

熱心な取り組みに感心した。どの業界もそうだが、激しく厳しい競争のなかで、社会とともに発展していこう、お互いがプラスになれるようがんばろうといったような姿勢を感じた。（40代、男性、研究・教育機関）

社員家族の座談会は、非常にユニークで良いステークホルダーミーティングだと感じました。（20代、女性、企業・団体職員）

社員に対するさらなる福利厚生制度の導入がご家族のみなさま方への「安心感」や「理解」につながるのではないでしょうか？（30代、男性、取引先）

商品性能だけを追求しているわけではないこと、トイレとタイルだけの会社ではないことがわかりました。住生活グループとの関わりや位置づけがよくわかりません。（30代、男性、報道機関）

エコファースト企業として、大胆な目標値を約束され、ほかの企業だけでなく、環境を意識している消費者も高い関心を持って御社の活動を見守っていると思います。具体的な取り組み内容が紹介されると、消費者に強くアピールできるだけではなく社内の一体感も醸成できるのではないかと感じました。（20代、男性、企業・団体環境担当者）

INAXへの期待やご要望

INAXの本業である住宅設備商品の拡大・拡充は当然のことと思うが、海外への進出、リフォームへの取り組みなど当面の課題についてもっと知りたい。またINAX社員一人ひとりが社会に貢献していることを自覚し、精一杯精進されることに期待する。（70代、男性、生活者）

いろんな識者の方が本誌に登場されていますが、外部の方を引っ張ってこられるより、内部の活動、たとえば地域貢献などをもっと詳しく知りたいです。（50代、男性、企業・団体職員）

ユニバーサルデザインについてのストーリーも、INAXデザインのコンテンツでもっと知りたい。CO_2削減の目標で2050年をターゲットとする理由がもっと知りたい。（20代、女性、企業・団体職員）

回収された廃棄品などの再利用への方法、その結果などを知りたいと思います。（男性、生活者）

プラント事故～そのほかのトラブルについて、企業のヒューマンエラーは増加傾向です。トラブルがあれば公表してください。（70代、男性、NPO）

エコ商品の開発をがんばってほしいです。（10代、女性、学生）

地域防災に対するINAXの活動状況の有無について知りたい。（50代、男性、生活者）

海外での活動、普及度、評価などについて知りたい。（50代、女性、生活者）

原油、原材料高の時代にあって、企業の収益悪化が懸念されますが、開発、販売、生産の総合力も発揮され、さらなる躍進を期待しております。（70代、男性、生活者）

産業界が総量でのCO_2削減に消極的ななかで、自主目標といえど総量で目標を設定。しかも長期の2050年というレンジには驚きました。ぜひ業界でのリーディングカンパニーを目指してほしい。（60代、男性、そのほか）

初めて読み、貴社の前向きな姿勢を強く感じた。今100年に一度の大不況といわれるが、わが国を代表する産業のひとつである貴社の実績をさらに世界に示すときである。もっとアピールして経済に活力を与えてもらいたい。（50代、男性、そのほか）

2008年度のおもな活動記録

2008年度のおもな活動記録（2008年4月～2009年3月）

	国内	海外
2008年 4月	◦「復職カウセリング制度」などダイバーシティ戦略を拡充する新制度導入 ◦第10次中期経営計画、新「環境宣言」スタート ◦新商品&リフォームフェア（東京国際フォーラムほか） ◦愛知県と「海上の森」保全契約を締結。「森でeこと」活動開始 ◦「長野ショールーム」リニューアルオープン ◦タイル・建材事業／「エコカラット」2シリーズ追加、「スイートルーム」に「リゾートスタイル」追加、内装壁タイル3シリーズ、床タイル1シリーズ、玄関床タイル3シリーズ追加、外装タイル5シリーズ追加 ◦設備事業／「サティス2008年モデル」、「サティスカラーズ」、「サティスアステオカラーズ」、「おしりマルチフィット洗浄」を搭載したシャワートイレ「Kシリーズ」、「ペット用水栓柱」発売。「ピタ」バリエーション追加 ◦住器事業／「キレイ床」搭載の戸建住宅向けシステムバスルーム「ラ・バス」、ライフデザインキッチン「グランピアッセ リュクス」発売。洗面化粧台「ピアラ」、「オフト」、セレクトキッチン「イスト」、リビングキッチン「グランピアッセ」リニューアル	
5月	◦IST（INAX Safety Transport）総会開催 ◦「熊本ショールーム」リニューアルオープン ◦「米子ショールーム」新設オープン ◦「久留米ショールーム」新設オープン ◦浴槽の排水を利用してゴミを簡単に捨てられるようにした「くるりんポイ排水口」が「環境・設備デザイン賞」優秀賞を受賞 ◦「INAXエコセンター」の活動が「あいちエコタウンプラン」に認定	◦上海で「第13回Kitchen & Bath China2008」に出展（中国）
6月	◦三重県および伊賀市と「企業の森　森林づくり宣言書」に調印。「森でeこと」活動拡大 ◦「名古屋ショールーム」リニューアルオープン ◦業界トップランナー企業として環境省と「エコ・ファーストの約束」 ◦ゆとりのトイレ「レジオ」発売 ◦「エコカラット」が洞爺湖サミット「ゼロエミッションハウス」に採用 ◦手洗器用自動水栓「オートマージュグースネックタイプ」リニューアル ◦営業6拠点、研究開発・管理2拠点でゼロエミオフィス認定 ◦“でんきを消して、スローな夜を。”「100万人のキャンドルナイト2008 夏至」に参加 ◦『INAX Corporate Report 2008』発行	
7月	◦知多物流センター内に「ドライバー仮眠室」オープン ◦「INAX QUALITY AWARD」ほか2007年度表彰式開催	◦INAX VIETNAM CO.,LTD.開業（ベトナム）
8月	◦「INAXライブミュージアム」が「キッズデザイン賞／コミュニケーションデザイン賞」受賞 ◦第1回エコドライブ講習会開催 ◦パブリック用超節水商品「カートリッジ式小便器」「壁掛式洋風便器」発売	◦外壁タイル事業に本格参入（韓国）
9月	◦「沼津ショールーム」新設オープン ◦マンションリフォーム用システムバスルーム「リノビオ」ラインナップ強化 ◦「第35回国際福祉機器展（H.C.R.2008）」出展	◦蘇州伊奈建材、開業10周年記念式典（中国） ◦蘇州伊奈陶瓷、第2工場竣工式（中国） ◦VINAX第4工場竣工（ベトナム） ◦「チェルサイエ展示会」5回目の出展（イタリア）
10月	◦「レジオ」など9件が2008年度「グッドデザイン賞」受賞 ◦「和歌山ショールーム」新設オープン ◦シャワーパネル「アクアネオ」発売	◦ジオ・ポンティ建築「サン・フランチェスコ教会」外壁タイルを復刻（イタリア）
11月	◦「ラ・バス」北海道仕様を受注開始 ◦集合住宅向けバスルーム「ソレオ」リニューアル ◦“でんきを消して、スローな夜を。”「100万人のキャンドルナイト2009 冬至」に参加	◦現地法人INAX KOREA Corporation事務所開設（韓国） ◦ベトナムに水栓金具の製造・販売会社INAX VIETNAM PLUMBING FIXTURES CO.,LTD.設立（ベトナム） ◦「ハノイショールーム」リニューアルオープン（ベトナム）
12月	◦「エコカラット」が「中部科学技術センター振興賞」受賞 ◦「統合カスタマーサポート」「オンラインカスタマーサポート」が国土交通省「超長期住宅先導的モデル事業」に採択 ◦「エコプロダクツ2008」出展 ◦「INAX:GINZA」が「2008ディスプレイ産業大賞（経済産業大臣賞）」受賞 ◦株式会社ジャクソン エス.ピー.アイがINAXグループに参加	◦モスクワに「RUNAXショールーム」オープン（ロシア）
2009年 1月		◦「ダナンショールーム」新設オープン（ベトナム）
2月	◦岐阜県と「緑と水の子ども会議」協定を締結 ◦「カートリッジ式小便器」が「省エネ大賞・省エネルギーセンター会長賞」を受賞	
3月	◦「アタルーニョ」がネーミング大賞受賞 ◦経済産業省の主催公開シンポジウム「もっと知りたい標準化ー消費者目線でのルールづくり」に、社長の川本がパネリストとして参加 ◦「新宿ショールーム」フロアを増床し「CL stage」オープン	

会社概要

会社概要／組織図／海外拠点・販売網

会社概要（2009年7月1日現在）

社名	株式会社INAX	
英文社名	INAX Corporation	
創業	1924（大正13）年2月1日	
本社所在地	愛知県常滑市鯉江本町五丁目1番地	
役員構成	代表取締役会長	杉野正博（株式会社住生活グループ 代表取締役社長）
	代表取締役社長	川本隆一
	取締役	石原俊一　山口 進　加藤和久　多田 章　秋山 泉
		有代 匡　神谷宣夫　徳永盛孝　河西清貴
		山中潤一　深尾修司　坪井祐司
	取締役（非常勤）	潮田洋一郎（株式会社住生活グループ 代表取締役会長）
		長坂泰郎（株式会社住生活グループ 専務取締役）
	常勤監査役	川村吉輝　伊藤政広
	監査役	大野龍一　岩田耕司
資本金	485億円	
従業員数	15,861名（国内子会社13社、海外子会社7社含む、2009年3月31日現在） 9,546名（INAXのみ／内正社員5,801名、2009年3月31日現在）	
事業領域	タイル・建材、住宅設備機器、事業開発	

事業所

常滑本社	愛知県常滑市鯉江本町五丁目1番地
東京本部	東京都中央区日本橋三丁目13番5号 KDX日本橋313ビル3階

支社（営業所）

北海道支社（札幌、旭川、帯広、函館）	北海道札幌市東区	
東北支社（宮城、青森、岩手、秋田、山形、福島）	宮城県仙台市青葉区	
首都圏統括支社	東京都中央区	
東京支社（中央、城北、城東、城南）	東京都新宿区	
西東京支社（西東京、山梨）	東京都立川市	
横浜支社（横浜、藤沢、相模原）	神奈川県横浜市西区	
東関東支社（千葉、柏、水戸）	千葉県千葉市稲毛区	
関東統括支社（栃木、群馬、新潟、長岡）	埼玉県さいたま市北区	
埼玉支社（さいたま、川越）	埼玉県さいたま市北区	
長野支社（長野、松本）	長野県長野市	
中部統括支社（岐阜、三重）	愛知県名古屋市東区	
名古屋支社（名古屋、岡崎、豊橋）	愛知県名古屋市東区	
静岡支社（静岡、浜松、沼津）	静岡県静岡市駿河区	
北陸支社（石川、富山、福井）	石川県金沢市	
関西統括支社	大阪府大阪市西区	
大阪支社（大阪中央、大阪北、大阪南、奈良、和歌山）	大阪府大阪市西区	
京都支社（京都、滋賀）	京都府京都市中京区	
神戸支社（神戸、姫路）	兵庫県神戸市中央区	
中国支社（広島、福山、岡山、米子、山口）	広島県広島市安佐南区	
四国支社（香川、徳島、愛媛、高知）	香川県高松市	
九州支社（福岡中央、北九州、久留米、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）	福岡県福岡市博多区	

ショールーム

札幌、旭川、帯広、青森、盛岡、仙台、秋田、山形、郡山、水戸、宇都宮、高崎、さいたま、川越、千葉、柏、足立、新宿、立川、横浜、藤沢、相模原、沼津、新潟、長岡、富山、金沢、福井、甲府、長野、松本、岐阜、静岡、浜松、豊橋、名古屋、岡崎、津、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、箕面、堺、神戸、姫路、岡山、広島、福山、米子、山口、徳島、高松、松山、高知、福岡、久留米、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、INAX：GINZA

国内子会社

［連結］
株式会社九州INAX
株式会社東濃INAX
伊奈精機株式会社
株式会社アーストン
株式会社テムズ
株式会社INAXCOM
祖父江工業株式会社
株式会社ダイナワン
株式会社INAXエンジニアリング
株式会社INAXメンテナンス
株式会社INAX総合サービス

［非連結］
株式会社NITTO CERA
株式会社ジャクソン エス.ピー.アイ
株式会社PLUMSITE
株式会社水の救急車
株式会社アイオックス
株式会社トコトー

海外子会社

［連結］
◆中国
伊奈（中国）投資有限公司（上海）
蘇州伊奈衛生潔具有限公司（蘇州）
蘇州伊奈建材有限公司（蘇州）
◆台湾
台湾伊奈股份有限公司＜台湾INAX＞
◆ベトナム
INAX VIETNAM SANITARY WARE CO., LTD.＜VINAX＞
INAX VIETNAM TILE CO.LTD.
INAX VIETNAM PLUMBING FIXTURES CO.,LTD.

［非連結］
◆アメリカ
INAX USA, Inc.
◆イタリア
INAX Italia S.r.l.
◆マレーシア
INAX MALAYSIA SDN. BHD.
◆韓国
INAX KOREA Corporation

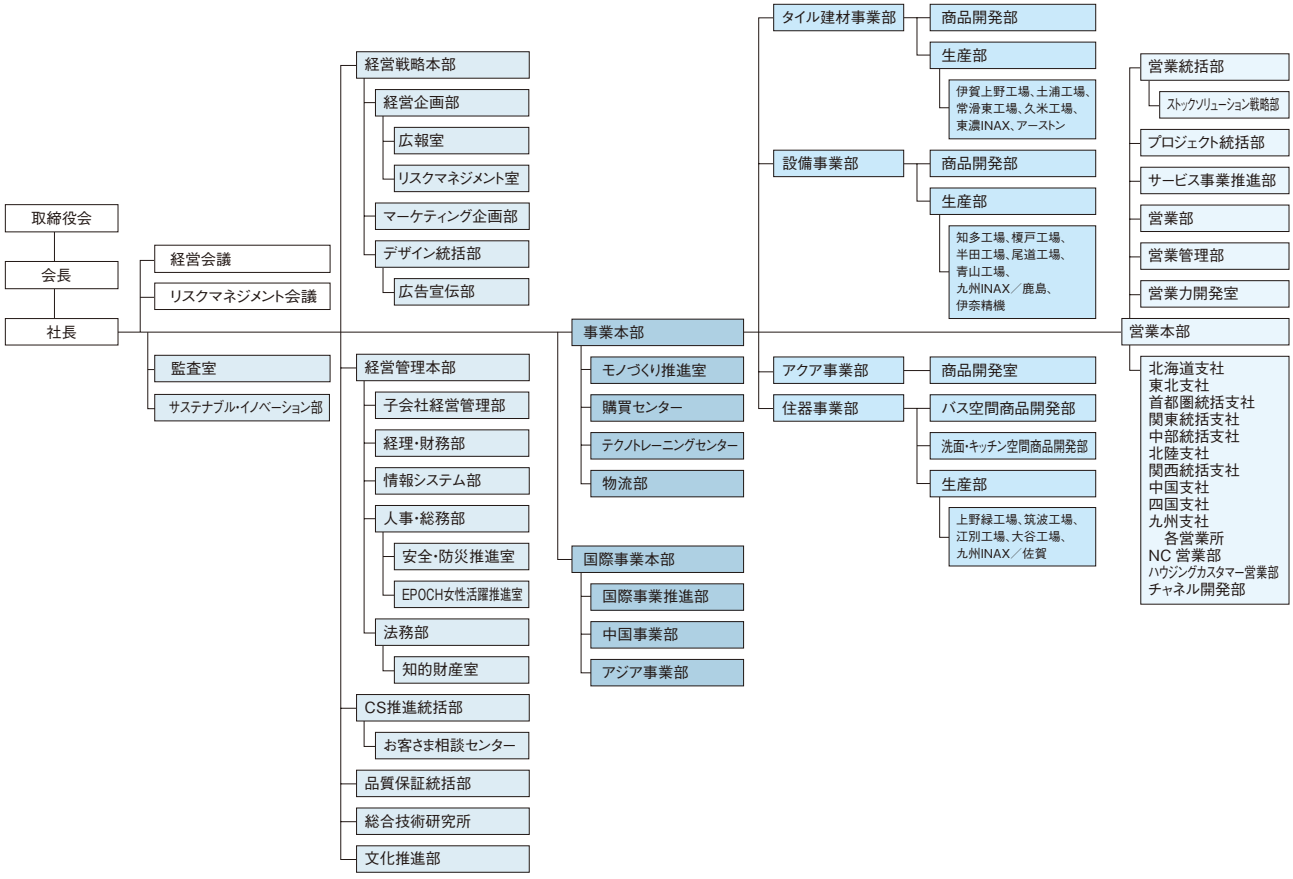
主要関連会社

国内7社　海外2社

持株会社

株式会社住生活グループ

組織図


取締役会
会長
社長
経営会議
リスクマネジメント会議
監査室
サステナブル・イノベーション部
経営戦略本部
経営企画部
広報室
リスクマネジメント室
マーケティング企画部
デザイン統括部
広告宣伝部
経営管理本部
子会社経営管理部
経理・財務部
情報システム部
人事・総務部
安全・防災推進室
EPOCH女性活躍推進室
法務部
知的財産室
CS推進統括部
お客さま相談センター
品質保証統括部
総合技術研究所
文化推進部
事業本部
モノづくり推進室
購買センター
テクノトレーニングセンター
物流部
国際事業本部
国際事業推進部
中国事業部
アジア事業部
タイル建材事業部
商品開発部
生産部
伊賀上野工場、土浦工場、常滑東工場、久米工場、東濃INAX、アーストン
設備事業部
商品開発部
生産部
知多工場、榎戸工場、半田工場、尾道工場、青山工場、九州INAX／鹿島、伊奈精機
アクア事業部
商品開発室
住器事業部
バス空間商品開発部
洗面・キッチン空間商品開発部
生産部
上野緑工場、筑波工場、江別工場、大谷工場、九州INAX／佐賀
営業本部
営業統括部
ストックソリューション戦略部
プロジェクト統括部
サービス事業推進部
営業部
営業管理部
営業力開発室
北海道支社
東北支社
首都圏統括支社
関東統括支社
中部統括支社
北陸支社
関西統括支社
中国支社
四国支社
九州支社
各営業所
NC 営業部
ハウジングカスタマー営業部
チャネル開発部

海外拠点・販売網

ロシア
イギリス
オランダ
ドイツ
ウクライナ
スペイン
イタリア
ブルガリア
トルコ
韓国
中国（上海・蘇州・杭州）
香港
台湾
インド
ミャンマー
タイ
フィリピン
ベトナム（ハノイ・ホーチミン）
マレーシア
シンガポール
オーストラリア
カナダ
アメリカ
●生産・販売拠点
□販売代理店網

INAX CORPORATE REPORT 2009

DATA

■報告期間

2008年4月1日～2009年3月31日

※報告期間が異なる場合は都度明記しています

■報告範囲

INAXグループ(INAXおよび連結対象子会社)の数値報告を基本としています

※報告範囲が異なる場合は都度明記しています

■参考にしたガイドライン

「GRI サステナビリティ レポーティングガイドライン 2006」を参考にしています。このレポートは127項目中79項目の内容を報告しています。GRIガイドライン対照表はINAXホームページ(http://www.inax.co.jp/company/)に掲載しています

■財務情報について

財務情報については、持株会社である株式会社住生活グループのホームページ(http://www.jsgc.co.jp/ir/default.htm)をご覧ください

■発行日

2009年6月30日(前回2008年6月30日発行、次回2010年6月発行予定)

株式会社 INAX
経営企画部 広報室

〒104-0031
東京都中央区京橋三丁目6番18号
京橋ビル9階
TEL 03-4332-5161
FAX 03-4332-5160

○ホームページ
http://www.inax.co.jp/

○会社情報
http://www.inax.co.jp/company/

○環境活動
http://www.inax.co.jp/eco/

○文化活動
http://www.inax.co.jp/culture/